

報告書



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

私たちの SDGs

～繊維製品の循環をめざして～

EW C
en-we-cle

×
Sustainable
Department

なんばマルイ 1F イベントスペース

2022 9.2 Fri - 9.11 Sun 11:00 - 20:00

学生によるアップサイクル商品の制作販売

大学・企業による SDGs 関連ポスター展示

リサイクル素材によるワークショップ

繊維と SDGs に関するゲストと学生のトークショー

未来を担う大学生が、廃棄予定の繊維材料から衣服、服飾雑貨、インテリア作品など、アップサイクルしたライフスタイル商品を自ら制作し販売します。そして同時に、学生主導によるワークショップ、大学・企業によるポスター展示、ゲスト講演者による SDGs 関連トークショーなども行います。これらの活動を通じて、これからの時代を担う大学生が繊維製品の廃棄から生まれる環境負荷について自分ごととして考える機会にし、さらには来場者とともに“つくる責任、つかう責任”を共有したいと思っています。



地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム



地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

報告書

「私たちの SDGs」～繊維製品の循環をめざして～

実行委員会（エンウィクル）

目次

1. はじめに
2. 経緯
3. イベント内容
 - 3.1 製品作成と販売
 - 3.2 ワークショップ
 - 3.3 トークショー
 - 3.4 ポスターセッション
4. 実行委員の声
5. 学生の声
6. おわりに
7. 展望

資料

- 資料1：実行委員、主催など一覧
- 資料2：会場スペース図
- 資料3：参加学生一覧
- 資料4：参加大学、資材提供企業一覧：
- 資料5：ロゴ
- 資料6：プロダクツ一覧
- 資料7：ワークショップ一覧：
- 資料8：トークショー一覧
- 資料9：ポスター一覧
- 資料10：学生アンケート結果

付録

- 付録1：マスコミ報道
- 付録2：雑誌への掲載
- 付録3：スナップ写真

無断転載厳禁

発行所：「私たちの SDGs」実行委員会（エンウィクル）編集部

お問い合わせ先：tkimura426@gmail.com.

1. はじめに

2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標である SDGs への関心が急速に高まっている。SDGs は 17 項目から成っているが、ものづくりに携わる者にとってはとくにゴール 12（つくる責任、つかう責任）への貢献度が問われている。

そこで、繊維製品に焦点を当てて、これからの時代を担う大学生が繊維製品の廃棄から生まれる環境負荷について自分ごととして考える機会として「私たちの SDGs」という総合テーマを掲げ、関西の複数の大学の学生が大学間の垣根を越えて一致団結して、廃棄予定の繊維材料から衣服、服飾雑貨、インテリア作品など、アップサイクルしたライフスタイル商品を自ら制作し販売するイベントを大阪なんばのマルイデパートのイベントスペースにおいて開催した。また、同時に、学生主導によるワークショップ、大学・企業による SDGs 関連ポスター展示、ゲスト講演者による SDGs 関連トークショーなども行った。以下にその概要について報告する。

(文責：木村照夫)

2. 経緯

開催場所の決定とチーム結成

2021 年 11 月に後述する実行委員の一人が有楽町マルイデパートのサステナブル商品を展示販売しているフロアーを訪問した際に、フロアー担当者から「環境」をテーマにしてデパートと大学とのコラボ事業が出来ないかとの打診があったのが本イベント開催のきっかけとなった。

その後、日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会所属の大学教員の有志が中心となって実行委員会（資料 1）を結成し、準備を進めた。

関西の大学がメインになることから開催会場はなんばマルイデパートで行うことになり、デパート側の担当者と実行委員とによって頻繁にオンライン会議を開催し、詳細を詰めていった。具体的スペースは資料 2 に示す一階イベントスペース約 100 m²を使用することになった。

参加大学の選択は実行委員関連を中心とし、各大学への打診を行うとともに、各大学で参加可能な学生の募集を行って頂いた。その結果、製作販売には 6 大学が手を挙げていただき、60 名の学生（資料 3）が参加することになった。学生参加はないが運営に協力して頂いた大学も含むと参加大学は 9 大学（資料 4）に及んだ。学生たちも大学間の垣根を越えてグループを結成し、インスタグラムや Line で情報発信や情報共有がなされた。

実行委員と学生グループとのチーム名を“en・we・cle”（エンウィクル）として活動することになった。「エンウィクル」の名前には、エン（縁、円、丸い）、ウィ（私たち）、クル（一緒に、鍵）の意義があり、今回のイベントにおいて「私たちとともに、これからの社会に向けて、より良い幸せのカギを開けましょう」というスローガンが込められている。また、ロゴの作成も行った（資料 5）。

主催、共催、協賛、後援団体の決定

主催団体としては「エンウィクル」とマルイデパートのイベントコーディネートを請け負っている株式会社 Style Agent とした。共催には今回のイベントの中心を担う繊維機械学会の繊維リサイクル技術研究会に御願いし、加えてフェロー会にも参画していただいた。さらに実行委員の一部が所属している NPO 未利用資源事業化研究会も共催団体としてお誘いした。今回の会場となるマルイデパートは協賛として参加していただいた。さらに本イベントを広く認知していただくために多くの団体等に後援をお願いした。

参加企業・団体は資料 1 に記載している。この場をお借りして、改めて協力して頂いた各企業、団体様には心よりお礼申し上げます。

繊維廃材の収集と廃掃法対策

制作にあたっては廃棄予定の繊維（糸、布、古着など）を 20 社（資料 4）から無償提供していただいた。ここで、提供していただく繊維が産業廃棄物である場合、大学が無償提供を受けることが廃棄物処理法に抵触しないかという問題が浮上し、調査を行った。このことは今後のイベント開催においても重要なことであるので以下に調査結果を示しておく。

【調査結果】

まずは環境省廃棄物規制課にお聞きしたところ、有価物であれば全く問題ないが産業廃棄物であれば無償提供が寄付行為として許されるかどうかは各自治体（廃材を受け入れる大学の所在する政令都市の環境局（廃棄物担当部局））によって判断が異なる場合があるので個別に問い合わせるように指導を受けた。

そこで、各大学の所在地にある、京都市役所、滋賀県庁、神戸市役所の担当部署を訪問（一部は電話）して指導を受けた。訪問日と先方の対応者は以下の通りである。

●6月16日（電話）

神戸市環境局環境保全課、北園氏

●6月22日

京都市環境政策局 循環型社会推進部 廃棄物指導課、年岡慶悟氏(担当係長)、松岡竜太郎氏

●7月11日

滋賀県循環社会推進課廃棄物対策室廃棄物指導課、重森俊一氏（主査）

（各部署の見解）

京都市：

- ・廃棄物か有価物かの判断は発行物「行政処分の指針について」に記載の通り。
- ・廃棄物を提供する側、受ける側がそれぞれ「有価物」とであると判断すれば廃棄物処理法は適用されず、受け渡しは自由。

- ・「有価物」であるからと言って必ずしもお金を払って購入する必要はない。
- ・「有価物」であるから企業等から送付して頂く場合は「着払い」にしておくのが無難。

（元払いにすると廃棄物の処理代と解釈出来ないことはない）

- ・有価物になれば受領側で自由に使用可能であるが、受領物が余った場合、適正な処理をして欲しい（不法投棄はしないこと）。

例えば故繊維業に引き取ってもらう。通常の繊維製品の処理に準ずれば良い。

滋賀県：

- ・今回のイベントのように定常的に廃棄物を提供するのではなく大学のイベントとして少量の廃棄物を無償提供するという行いは教育的活動であるので「廃棄物処理法」には適用されず、全く問題はない。
- ・送料は着払いにしておくのが無難である。元払いにすると廃棄物処理費と捉えられる場合がある。
- ・上記は滋賀県循環型社会推進課のお墨付きであると言っても問題ない。

神戸市：

- ・産廃を使用した試験研究は、自治体に“試験研究計画書”を提出する必要がある。
- ・しかし、今回のイベントでは端切れの性状が変わらないと判断されることから、試験研究に該当しないと判断できる。

（結論）

- ・もともと無償提供して頂く材料が有価物であれば、廃棄物処理法は適用されないので全く問題ない。
- ・今回のイベントは大学の教育的活動であるため廃棄物処理法は適用されない。
- ・念のために材料の送付は着払いにしておく。
- ・イベントで使用しなかった残部は適正に処理する。

（文責：木村照夫）

3. イベント内容

3.1 製品作成と販売

20 社から提供された様々な廃棄予定の繊維の中から学生が自由に選択し、思い思いのプロダクトを作成した。また、全体的なバランスを考えつつ学生自身で販売価格を設定した。各自の価格の判断基準の詳細は後述のアンケート結果（資料 10）に示されている。

学生が制作したプロダクトの一覧を使用した繊維素材とともに資料 6 に示す。製品は衣服からバッグ、小さなアクセサリまで多岐にわたっている。同じ素材を使っても学生によって全く異なるプロダクトになったり、通常では全く考えられないような、素材が廃棄物ならではのプロダクトも多々見られ、来場者の目を奪っていた。素材が廃棄物であることを全面に出すのが良いかどうかは消費者ターゲットに依存すると思われるが、今後とも廃棄物を世の中にはない新たな素材として捉えた新しい発想のプロダクトが多く出てくることを期待している。今回参加した学生の大半が女性であったことも要因かと思われるが、今回のプロダクトの販売対象は女性向きが多かった。今後は男女を問わず様々な感性や技術を持つ学生によってより幅広い分野に関する製品が創出されることを期待している。

（報告者：木村照夫）

3.2 ワークショップ

下記の 2 件のワークショップを行った（資料 7）。

A. 裂き編みでスマホポシェットを作ろう！

B. 「Vegan Leather」を用いて三角形の壁掛け小物入れを作ろう！

以下に A、B それぞれについて報告する。

3.2.1 A. 裂き編みでスマホポシェットを作ろう！

【1】実施内容

日付：9 月 2 日（金）、3 日（土）、4 日（日）

時間：①11:30～12:30、②14:00～15:00、③16:00～17:00 の 3 部制（3 日間同様）

参加対象：小学生以上（同伴 1 名可）

参加要件：事前申込制・空席あれば当日参加可、定員各回 6 名

参加費：500 円（税込）

体験内容：バイヤス方向のテープ状にカットした約 40 枚分の古着の綿シャツから好きな布地を選び、指編みの手法を用いて約 1 時間でスマホポシェットを完成させる。

素材提供：東谷商店

企画：京都女子大学家政学部生活造形学科 3 回生、4 回生

【2】開催日別参加者数

- ・9/2（金）6 名（+同伴者 1 名）
- ・9/3（土）8 名（+同伴者 1 名）
- ・9/4（日）8 名

【3】参加者アンケート集計

<年代>

10 代 2 名、20 代 12 名、30 代 1 名、40 代 5 名、50 代 2 名、60 代 1 名、70 代以上 1 名

<性別>

女性：21 名、男性：3 名、その他：0 名

<居住地>

大阪府 14 名、京都府 6 名、兵庫県 3 名、滋賀県 1 名

<参加理由（複数回答あり）>

- ・SDGs に興味があるから：6 名
- ・裂編に興味があるから：7 名
- ・もの作りがすきだから：18 名
- ・その他：4 名（家族や友人からの勧め、エンウィクルに所属している方）

<ワークショップへの意見・感想>

- ・スタッフの説明が丁寧だった。
- ・わからないところをわかるまで教えてくれた。
- ・面白い企画だった。
- ・家にあるもので作ろうと思った。
- ・久しぶりに手芸をして楽しかった。
- ・ワークショップをしていることがわかりづらかったので、もっとアピールしたほうが良いと思った。

【4】まとめ

9 月 2 日、3 日、4 日の三日間にわたって開催した裂き編みワークショップは、一日目 6 名、二日目 8 名、三日目 8 名、合計 22 名（+同伴者 2 名）の方に参加いただいた。本ワークショップは東谷商店より提供いただいた古着の綿シャツ約 40 枚分をバイアス方向にカットした材料を使い、指編みの手法を用いて約 1 時間でスマホボシエットを完成させる内容であった。10 代～70 代までの幅広い年齢層の方に参加いただき、概ね好評を得た。

はじめは難しいのではないかと構える参加者も少なくはなかったが、材料を選び、指編みの手法に慣れてくると黙々と制作に集中し、時折雑談もはさみながら終始和やかにワークショップを楽しんでいただけた。

ワークショップを担当した学生からは集客に苦戦しながらも、呼び込みやディスプレイの工夫などをして飛び込みのお客様を迎えられたこと、教える難しさ楽しさ、不要となった古着から新たにものを作れる可能性を伝えられたことなど、各々に使命感、充実感をもって取り組むことができた感想が多くみられた。

（報告者：高山祥子）

3.2.2 B. 「Vegan Leather」を用いて三角形の壁掛け小物入れを作ろう！

【1】実施内容

日付：9月9日（金）

時間：17:00～18:00

参加対象：制限なし

参加要件：当日参加、定員 16 名

参加費：500 円（税込）

体験内容：古着の再生素材「Vegan Leather」で作ったパーツを組み合わせ、三角形の壁掛け小物入れを制作する。

素材提供：株式会社 colourloop

企画：京都光華女子大学キャリア形成学部キャリア形成学科 3 回生

有志チーム「G?F（グーフ）」

【2】参加者数

10 名

【3】まとめ

9月9日（金）に開催されたトークショー「アップサイクルで SDGs に貢献」の第4部である株式会社 colourloop 代表内丸もと子氏の講演に続く形で実施した本ワークショップでは、株式会社 colourloop が開発する再生素材「Vegan Leather」を用いて、三角形の壁掛け小物入れの制作体験をおこなった。

制作アイテムの企画では、「Vegan Leather」のレザーのような風合い質感と、手のひらで自在に折って軽く形状をつくることのできる粘度を生かし、道具を一切使用せず、単一素材で組み立てられる工程とパーツづくりにこだわった。また、手のひら指先を使って組み立てることで「Vegan Leather」独特の肌触りや、触り続けることによる素材の変化を体感してもらうことも狙いとしている。

告知については、当日トークショーの来場者にチラシを配布し実施の周知をおこなったが、それ以外に、事前に関係者の口コミで知った方、京都新聞、繊維ニュースなどの記事を見て知った方がワークショップを目的に来場してくれていたことは嬉しい驚きであった。

制作体験では、担当スタッフの学生1名につき1～2人の体験者が一斉に作業をおこなった。まず、あらかじめカットした三角形のパーツと幅 5mm 程のテープ状のパーツから、好きな色の組み合わせを選び、三角形のパーツにある切り込みにテープを通して縫合していく。幅 8mm～10mm の小さな切り込みにテープの先を通す作業には集中が必要だが、素材の色選びから完成までにかかった時間は多くの人が 30 分足らずであり、「簡単にできた」という印象であったようである。

担当スタッフの学生は、制作工程をナビゲートしながら、参加者に「Vegan Leather」の特性を説明した。色分けの工程を経た古着が生まれ変わった素材であること、使用と経年によって質感に変化が起きることなど、事前に関丸氏から教わった知識と自らの体験を参加者に話す機会を得たことで、交流を楽しみながら、唯一の特性を持つ再生素材の面白さを実感していた。そして「次はこんなアイテムも作れるのではないだろうか」と新たな発想が生まれ、チーム内の会話も明るく弾み、実施した学生にとって今後の活動への励みともなる有意義なイベントであったと感じている。

（報告者：宮原佑貴子）

3.3 トークショー

2日間にわたって各日、大学・企業からSDGsに関わる8件の話題提供をしていただいた。本セッションでは各講演ともに最初15分程度講演、その後、講演者を交えて会場参加者と議論がなされた。講師と講演タイトルは(資料8)に示す通りで、初日を「アップサイクルでSDGsに貢献」とし、主に企業の取り組みについて、2日目は「服を通じてSDGsに貢献」とし、主に教育的見地から議論がなされた。なお、各講演ともに司会は学生が担当し、担当学生は事前に講演者とオンラインで事前打ち合わせも行った。

初日の聴講者は40名を超え、立ち見の方々も多かったのみならず隣接する他店舗まであふれることになり、急遽ロープを張って他店に迷惑が掛からないように対応した。講演者と司会者との事前打ち合わせを行ったこともあり、非常にスムーズな進行となり、いずれもセッションの制限時間一杯まで活発な議論が行われた。2日目の聴講者は初日に比べて若干少なかったが各講演ともに20~30名の参加者があり、初日と同じく活発な議論が行われた。とくに営利を目的とする企業にとって環境と経済をどのように天秤にかけると、現在のSDGsに対する高い関心を単にブームで終わらせないためには何をすべきか、さらには本当に環境に優しい商品とは、ブームに便乗したグリーンウォッシュをどのように見分けるかなどが議論され、学生にとっても今後の研究に対する考え方や繊維製品の消費について今一度考え直すきっかけになったのではと思われる。

(報告者：木村照夫)

3.4 ポスターセッション

SDGsに関係する内容のポスター展示が期間中の全日行われた。展示件数は場所的な制約もあり、24件に限られた。約半数は大学関係者から、残り半数は企業からの出展であった。タイトルと発表者は資料9に示す通りである。ポスター提出者にはあらかじめ出来る限り文字を減らして図や写真を多用してほしい旨、お願いしたため、少し離れた場所からも内容を把握しやすかった。内容的には専門的なものから消費者向けのものまで多岐にわたっていた。とくに企業ではSDGsに対してどのように取り組んでいるか、大学ではSDGsに対してどのような研究を行っているかが垣間見れると同時に企業と大学、企業と企業、さらには大学と大学とのコラボの可能性もポスター発表を通じて生まれそうな予感がした。

(報告者：木村照夫)

4. 実行委員の声

4.1 森下実行委員長：

私はこのイベントでのたくさんの出会いに、言い尽くせない感謝を感じています。ふりかえると、準備から開催に至るまで、廃材の取り扱い、店舗での販売の段取りなど、初めてのことも多くありましたが、今、できることをやろうという選択と、今後に解決すべき課題も見つけようとすることで、前へ踏み出していくことができました。そして何よりも、委員の皆様、学生と率直に話し、チームとして共に取り組んだからこそ、無理をしすぎずに、楽しい気持ちでイベントに参加できたと思います。

学生の皆さんの活動は、同じ大学やサークルの仲間でもなく、異なる大学間で学年も様々な学生が集まって、どのようになっていくのだろうか、教員が関わっていることに、どのような受け止めをしているかなど、開催日まで心配に思うこともありましたが、いざ始まってみると、どんな場面においても、学生同士で単に相談し合うだけでなく、相手への配慮にあふれたやりとりが、当たり前のように行われている光景がありました。私は普段から多くの学生に接していますが、その状況には大変感銘を受けました。大袈裟かもしれませんが、大学の垣根を超えた清々しいやりとりを、心に刻んでおきたいと思っています。

企業から提供していただいた廃棄予定の繊維は、不揃いの形状や色彩、普段は触れることのない産業資材、一般のミシンでは縫製が困難なものなど、制作する学生にとって大変な試行錯誤があったと思います。その一方で、それらの廃材には各々に独特の個性があり、難しいけれど、なんとかデザインに挑戦し、販売する商品にしてみたいという思いが、学生のイベントに向かうモチベーションになったのではないかと思います。

繰り返しになりますが、このイベントをやって一番良かったと思うのは、学生みなさんがチームの制作に対して大いに刺激を受け、自分もまたこれから挑戦してみたい、と感じていたことです。誰の作品に対しても傍観するのではなく、声をかけて尊敬の念を持つ、周囲にもそれが伝わった学生の皆さんの交流は素晴らしいものでした。そして、その交流の中心にあったのはやはり「デザインの可能性に向かおうとする気持ち」だったと思います。制作物を見てくださった方に、少なからずその空気が伝わっていたなら嬉しいことです。

エンウィクルが生み出した、ここしかない出会いに立ち会えたことに、あらためて感謝いたします。10日間のイベントは、私自身に、また多くの方々とともに、次に向かいたいと思うエネルギーを与えてくれました。ありがとうございました。

4.2 宮原副実行委員長：

今回のイベントについて、木村先生からお誘いを受けたのは2021年の秋でした。「繊維廃材をテーマに、企業と研究者、学生が共に取り組み、商業施設で発信することによって、学生が社会との接点を実感できるようなイベントを計画しよう！」、そんな先生の構想にぜひ参加したいと思い、飛び乗るように仲間に入れていただきました。

年が明けてからは、実行委員の先生方と、企業とどのような発信をおこなうことができるか、学生の取り組み方法、時期はいつ頃が良いかなど、具体的な打合せを重ねる度に、白紙であった企画書に輪郭がみるみる描かれていきました。

各大学から学生メンバーが集結したのは2022年6月のことでした。初めてのzoomミーティングの時のことを鮮明に覚えています。オンライン授業と同じように画面の窓にはたくさんの顔が並んでいますが、ほとんどが初めて見る者同士。学生の皆さんはきっと、「こんなにたくさんの人がいて、うまくできるかな？」、「〇〇大学の人、すごくしっかりしている！」など不安と驚きで刺激が強かったと思います。

あの時、実は私も不安な気持ちでした。総合大学でデザインを学ぶゼミの学生、芸術系の作品を作っている学生、有志の学生など、参加状況はさまざまだったので、「同じ気持ちを共有し活動する」ことは難しいのではないかと考えたのです。しかしそれは私の杞憂でした。就任を快諾してくれた学生リーダーがSNSの情報発信を提案してくれたことで、皆がそれぞれの持つ役割を認識しイベントの開催に向けて同じ方向に進み出したのです。具体的な投稿期限、明確な情報内容等、リーダーの的確な指示のもと準備は着実に進みました。

当日まで一度もリアルに会わなかった参加者の皆さんですが、不安の中にも同じ場所を目指す同世代のメンバーが”きっと”頑張っていることを感じていたのではないのでしょうか。

そして、イベントは多くの来場者を迎え盛会に終わることができました。

開催後の参加学生のアンケートでは、「他大学の学生と一緒に取り組んで良かったことがある」の質問に96%の学生がYesと答えてくれました。その理由の多くは「他校の学生のアイデアやデザインに刺激を受けた」、「他大学の人との出会い」でした。この結果から、同じ場所を目指し集まった仲間と、イベ

ント会場で対面し、テーマのもとに共感した経験が、皆さんの心に強く残っていることを確信しました。

SDGs が内包する様々な課題は壮大なテーマで、当然、一朝一夕に解決できるものではありません。しかし、今回のイベントにおいて企業から提供いただいた繊維廃材に出会い、学生が日々学ぶ専門領域を生かした個性ある商品を並べ、ひとつの場所に集結することができたのは、まさに壮大なテーマに対する多様でカラフルな答えであると感じています。

今、イベント期間を終え感じるのは、「始まり」の鼓動です。そしてこの「始まり」をもたらしたのは、参加者の誰 1 人欠けては成立しないこのイベントの成功です。

学生のみなさんと共に、これからの時代への架け橋となるエンウィクルの「始まり」を感じられたこと、心から嬉しく思っています。ご協力くださった企業の皆様、関係者の皆様、そして実行委員の先生方、本当に、ありがとうございました。

4.3 三宅実行委員：

今回のイベントは、参加学生、協力企業、後援機関、来場者など皆様のご協力のもとに成功裏に終わることができました。総合テーマである「私たちの SDGs ～繊維製品の循環をめざして～」、すなわち繊維製品に関する環境負荷問題を自分ごととして考え、皆で“つくる責任、つかう責任”を共有するという目的を達成することができたと感じております。

参加学生の立場からは、夏季休業期間に大学に集まって議論しながら制作を行う過程で、イベントに間に合うかな？ 売れるのかな？ 他学の人たちとうまくやっていけるのかな？ 様々な不安や期待の中での準備期間だったようです。しかし、実際に売り場に立ち、イベントや商品の説明を行い、他学生と話し合いながら売り場のレイアウトを修正し、そしてなにより自分たちの制作品を購入してくれるお客様と接することで、すべて杞憂であったことに気付いたようです。

実行委員の立場からは、2つの気づきがありました。1つ目は、企業の皆様の環境問題に対する真剣な取り組み姿勢は、私の想像を超えるものでした。企業をはじめ来場者の皆様とお話は、自身の知識の浅はかさや環境問題に対する甘さを痛感させられるものでした。2つ目は参加学生たちの意識です。正直、開催前に「本イベントの主旨や目的を理解している学生ってどのくらいいるのだろうか？」と考えていた自分が恥ずかしくなるほど、全参加学生が真剣に取り組んでいました。すべての参加学生がです。大変感動しました。

繊維分野に携わる者として、また教育に携わる立場として、自身が大いに学び、刺激を受けたイベントでした。

環境負荷問題には特効薬はありません。可及的速やかに取り組んでいかなければならない課題であり、私たち衣服や繊維分野に携わる者の使命でもあります。本活動をさらに発展・継続させていくことが必要であり、実行委員としての使命だと強く感じました。

本イベントの実行委員であったことを大変誇りに思います。

4.4 高山実行委員：

イベント「私たちの SDGs」を開催するにあたって 6 大学、約 60 名もの学生が約 3 カ月間にわたりZoomでのミーティングを重ねてきました。オンライン上であっても互いに刺激を受けながら制作を進め、イベントを作っていくことができたのは学生にとって大きな経験となりました。そこには実行委員の皆様のご尽力、賛同いただいた企業・団体、関係者の皆様の多大なるご協力のもと実現したものと存じます。

企業から提供いただいた様々な廃棄予定だった素材からできた商品が集まると、個性あふれる売り場となりました。店番の合間にじっくりと他大学の商品を見て発想や技術に刺激を受ける学生の様子は大変印象的でした。

期間中、学生達が制作した商品を手に取り喜んでくださるお客様の様子を幾度も目することができました。廃棄予定の素材がアイデアや技術により、大変身を遂げ新たな価値が生まれるということ、そしてその可能性を改めて強く感じました。

商品制作・販売の他、ワークショップ、トークショー、ライブ制作どれもが学生が主体となりそれぞれ自覚をもって取り組む様子がうかがえました。イベント期間中ぐんぐんと成長していく学生の姿、生き生きとしていく表情をそばで見ることができ、大変嬉しくそして頼もしく感じました。

ポスター展示は展示方法のキャッチーさも目を引き、期間中多くの方に見ていただくことができました。ポスターを制作いただいた先生や企業の方々にもご来場いただき、直接お話をうかがうことができたのは個人的に印象的な出来事のひとつでした。

京都女子大学の青木研究室は唯一ポスター展示とそれにともなった制作物（非売品）の展示もおこないました。お客様や関係者からのご意見ご感想など生の声をいただくことができ、今後の研究を進める上で大変貴重な機会となりました。

参加学生がまず繊維製品の廃棄についての問題や環境問題を自分ごととして考えることがとても重要で、本イベントでの学生の取り組みへの姿勢や制作した商品などを通して、お客様にも自分ごととして考えていただくきっかけとなり、その輪が今後も広がっていくことを願っております。

今回はこのような素晴らしいイベントに実行委員として関わらせていただき、また大変お世話になり、誠にありあとうございました。

4.5 井上実行委員：

繊維業界、ファッション業界はCO₂の排出量が全業界の10%を占め、大量の水資源を消費する“世界で2番目の環境汚染産業”（国連貿易開発会議調べ）と言われています。しかし、衣食住の中で、人間だけが行う営みである“衣”は物理的な生活必需品ということだけではなく、これからも文化として育ていくべきものと考えます。

環境対応のモノづくり、リサイクルに関する技術の開発だけではなく生活スタイルをはじめとして様々な観点から“衣”，ひいては繊維製品を見つめ直す必要があります。SDGsの一つ一つの目標が重要であると同時に、それらの一つだけが充足されても“誰一人取り残さない（leave no one behind）”世界は作れません。ただ、一方で、個人個人に何ができるのだろうか、という思いを持つ人も多いのではないのでしょうか。

今回の取組は、その思いを覆し、身近なところから行動すればできることを具現化したものです。次代を担う大学生が大学間の垣根を越えて団結し、ここまでのイベントを作り上げました。テキスタイルコミュニティの創成、廃棄物からの作品制作によるサーキュラーエコノミーの実現とマーケティング、本当に素晴らしい内容でした。担当された全ての学生さんたち、裏方に回って、その下支えをされた先生方に心から感謝の意を表し、拍手を送りたいと思います。私は実行委員でありながら、ほとんど何もできず、申し訳ありませんでした。

さらに、ここから“en・we・cle”（エンウィクル）は羽ばたいていくものと思いますので、微力ながらも可能な限り、力を尽くしたいと存じます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

4.6 木村実行委員：

思い起こせば本イベントは昨年 11 月に有楽町マルイをぶらっと訪問し、マルイのサステナブル担当の方と雑談をしたのがきっかけでした。

それ以来、長期間に渡る準備を経てイベントを無事終えることができたこと、実行委員の先生方、そして参加して頂いた多くの学生諸君に心より感謝致します。本当にありがとうございました。そしてご苦労様でした。学生諸君へのアンケート結果に見られるように多くの学生が有意義だったという感想を見て、遣り甲斐がありました。

今回成功裏に終わったのも準備期間から実行委員、学生全員が本当に真剣に取り組んで頂いたお陰だと思っています。何とかなるだろうという安易な気持ちで取り組むと大概是失敗します。今回は皆さんが良い意味で緊張感を持って一生懸命に取り組んでくれたお陰だと思います。

制作物の個性あふれる素晴らしさ、ワークショップにおける学生による参加者への指導態度、トークショーにおける気持ちの良い司会進行、どれも感心し、そして感激しました。

また多くの大学が大学間の垣根を越えて取り組むイベントはなかなかまとまるのは大変ですが坂上学生リーダーの元、インスタやラインもフル活用して一体感を持って取り組んでくれたこと、素晴らしいと思いますし、アンケート結果にも書かれていたように学生諸君にとってもこのイベントを通じて異なる大学とのネットワークができたことは大きな価値があったのではと思います。

また、大学の授業では得られない多くの学びがあったのではと思います。特に社会人の方々と接して色々会話する機会を持つことができたのも良かったのではないかと思います。

このようなイベントの大成功の裏では多くの協力者、強いては森下実行委員長をはじめとする実行委員の先生方の多大なるご尽力がありました。このような素晴らしい先生方に出会わなかったらこのような素晴らしいイベント開催も不可能だったと思います。

今回は改めて人間力（チームワーク）の素晴らしさ、凄さを感じました。

SDGs の目標である「誰 1 人取り残さない」

参加者全員、準備に大変だったと思いますが誰一人取り残されることなく有意義にイベントに参加できたものと思います。

エンウィクルは今後もバージョンアップして活動して行きたいと思います。さらに素晴らしい仲間を集めましょう。

5. 学生の声

イベント終了後、全学生に対して今回のイベントに関するアンケート調査を行った。全員から回答が得られた。質問項目と主な回答は以下の通りである。詳細は資料 10 に示してある。

1. 今回のイベントは興味を持って取り組みましたか？

（とても興味を持った：83.0%）

2. 今回のイベントに参加して SDGs についての意識は変わりましたか？

（とても変わった：60.4%）

3. 今回、最も大変だったことは何ですか？

（デザイン：6.04%）

4. 廃棄予定の繊維を用いて制作して気づいたことは何ですか？

（デザインの可能性：79.2%）

5. 販売価格はどのようにして決めましたか？

(材料費と制作に要した時間を考慮して：39.6%)

6. 他大学の学生と一緒に取り組んで良かったことはありますか？

(大いにある：84.9%)

7. 「他大学の学生と一緒に取り組んで良かった」と答えた人は、どのようなことが良かったですか？

(アイデアやデザイン面で：70.6%)

8. 自分の大学での学びや知見は活かせたと感じますか？

(大いに活かした：49.1%)

9. 自分の専門領域が可能な SDGs に関する社会貢献はどのようなことだと思いますか？

(デザインや制作の取り組み：62.3%)

10. 廃棄に関わる繊維に関して知りたいことはありますか？

(消費者が廃棄した後の課題：67.9%)

11. 廃棄予定の繊維を使ったイベントをまた行うならどんな内容がしたいですか？

(新しい用途の制作：62.3%)

12. 将来の仕事を選ぶときに SDGs を意識しますか？

(する：37.7%)

13. 今回参加して最もインパクトがあったこと（印象的なこと、おもいでになること等）を記述してください。

(53 件の回答)

14. あなたが思う今回のイベント全般の改善点とそれに対するアイデアを記述してください。

(33 件の回答)

6. おわりに

エンウィクルによる初めてのイベント「私たちの SDGs～繊維製品の循環をめざして～」は、令和4年9月2日から11日の10日間、なんばマルイにて開催されました。本イベントには約30社もの企業様のご賛同をいただき、多くの方のご来場により、盛会に終えることができました。そして、これからの時代を担う約60名の大学生が繊維製品の廃棄から生まれる環境負荷について自分ごととして考え、目的のもとに集結できたということは、このイベントの意義を語るものであり、循環社会に向けた第一歩であったと思っております。

これもひとえに、本イベント開催に、共催、協賛、協力、後援をいただいた企業団体の皆様、ご指導いただいた先生方、参加してくださった学生の皆様があつてこそそのものと、心より感謝申し上げます。

繊維製品の未来に進むエンウィクルの活動は、今、ここにスタートしました。

(文責：宮原佑貴子)

7. 展望

繊維廃材の課題を社会に発信することを目指し、大学間の垣根を越えて学生たちが取り組んだ今回の取り組みは、制作を通じて互いを認め合う交流を生んだ。大学ごとの活動ではなく、ひとつのチームとなることで築くことができた交流であったとあらためて感じている。こうした活動をすこしずつ積み重ねていくことで、課題解決のための新しい発見があるのではないかと考える。ここでは今回のイベントをふりかえりながら、今後に向けた課題と可能性を述べる。

企業や教育関係の方々に協力をいただいたトークショーとポスター展示は、繊維分野の研究開発の現状を多くの方に知らせるだけでなく、廃棄物からの制作についての意義を伝え、イベント全体への信頼を支えるものとなった。また、学生と企業関係者、教育関係者として行われたトークショーでは、事前打ち合わせによって参加学生の問題意識が深められ、中にはトークショー当日に向けての主体的な調査も行われていた。イベント期間中の開催は、設営や音響などに課題はあるものの、学生と企業、聴衆の各々の立場から課題を共有するための接点となるトークショーは、今後も一層、有意義なものになると考える。

制作物について、女性対象の服飾雑貨や衣服が主になったのは、参加した学生の専門が、生活造形、生活デザイン、生活環境など、生活に根ざした分野が多かったこと、マルイの店舗の客層を念頭にしたこと、学生の大半が女性であったため、その視点から制作されたことなどによるだろう。今後の可能性として、参加大学の専門性や制作者の性別をさまざまにしていくことで、今回とはまた異なる切り口での制作物になると思われる。また販売に関して、購入に至ったものと至らなかったものの差は、制作物の価格設定による影響もあったと考えられ、今後は価格設定の基準に検討が必要である。

イベント会場に立ち寄ってくださった方々の制作物に対する評価は、使う場面が身近なで親近感があったことや、誰かにプレゼントしたいと思えるような可愛らしさや楽しさがデザインの特徴にあったからと感じられた。そして来客に共通して言えるのは、大半の方は廃材からの制作と知らずにデザインが目を惹いたので手に取ったというものだった。

これらの評価から、今回の制作物は技術面や機能面からの開発とは異なる位置づけとして、ごく身近なもので人の心に訴えることができるデザインの可能性を示したと言えるのではないだろうか。このことについては、学生のアンケート結果をみても、制作して気づいたことについての質問には、約80%の学生が、「デザインの可能性がある」と答えている。もちろん「廃材の取り扱いの難しさ」を約50%の学生が答え、最も大変だったことを「デザイン」と答えた学生も約60%いる。しかし、他大学の学生と取り組んで良かったこととして、約70%もの学生が「アイデアやデザイン面で参考になった」を挙げ、今後のイベントを行うなら何をやりたいかについても、「新しい用途の制作」や「ファッションショー」と半数以上の学生が回答している。

これらのことから廃材を用いたデザインの可能性は、来客の評価、そして制作した学生自身も実感している。特に学生はデザインをするのは大変であるものの、今後の取り組みには前向きで意欲的な姿勢を持っていることが読み取れた。

制作の進め方については、今回、各企業から提供された廃材を複数の大学で分け合ったことから、同じ種類の廃材をさまざまな学生が使いテーマも自由に制作した。これは制作の進め方として実験的であったと言える。こうして制作されたものは学生ごとにデザインの個性が引き出され、魅力ある制作物が出来上がった。学生からも、ひとつの廃材がいろいろな制作物になり得ることを目の当たりにして、デザインの考え方が広がるよい刺激になったという声が多い。今回のように同一の材料に対して、複数の制作者が取り組むことによって新鮮な学びが期待できる。

一方で、通りがかりで制作物を見てくださった方の廃材への意識や関心は如何ほどだっただろうかと考えると、その際の会話から環境負荷の問題意識はあまり高くないと感じた。もちろん、廃材から学生が制作したことを説明すると熱心に耳を傾け、学生が制作したことにも感心された。しかし、繊維は生活に極めて密接な存在であるにもかかわらず、現実には繊維が抱える環境や消費の課題は社会にまだまだ届いていないと感じた。

今回の学生のアンケートにもイベントの情報発信が不足であったとの声があがっていたが、いくら良

いものを作ってもその価値が伝わらなくてはならない。作ったものをどのように発信するかが重要であり、エンウィクルの活動も今後どのように社会に発信して伝えるかが検討することが必要である。

そこで今後の企画としてファッショナーの開催が訴求力の強い発信のひとつの方法になると考える。廃材の新しい魅力を引き出すように制作したものを、実際にモデルが着装してみてもらうことで、これまであたりまえと思っていた既存の服の美しさや、固定した感覚を解きはらうきっかけになる。ショーでは廃材の種類や用途別にテーマを設定して、様々な廃材でコラボレーションを行うことで多様な種類の廃材を見てもらい、マイナスイメージを変えることにもなるだろう。また発信については、日常的な発信拠点としてホームページの開設も人と情報の活発な交流になると考える。ただしそのしくみを実現するには、現実的にそれを運営するための資金調達や環境づくりが必要である。

廃材を用いた制作の用途やターゲットはまだまだ明確ではない。新しいマーケットを開拓することや、廃材による製品が現実的な商品選択の対象となることは既に求められているが、それは一つの立場で行えるものではなく、社会が一丸となって意識を変えないと前へ進まない。そして環境に対しての取り組みは数年で終わるものではなく、信念をもって継続させ取り組むかが問われていく。その意味で、今後さまざまな方法を模索しながらもエンウィクルの活動を行うことで、廃棄とその環境負荷についての意味ある情報発信を行える可能性があると考え。教育に携わる立場からも、持続可能な社会が当たり前とすることを受け入れる社会の実現に向けて、実際に行動する人を育てることが必須であり、学生主体のエンウィクルの活動を継続し一翼を担えればと素晴らしいと思う。

(文責：森下あおい)

資料

- 資料1：実行委員、主催など一覧
- 資料2：会場スペース図
- 資料3：参加学生一覧
- 資料4：参加大学、資材提供企業一覧：
- 資料5：ロゴ
- 資料6：プロダクツ一覧
- 資料7：ワークショップ一覧：
- 資料8：トークショー一覧
- 資料9：ポスター一覧
- 資料10：学生アンケート結果

付録

- 付録1：マスコミ報道
- 付録2：雑誌への掲載
- 付録3：スナップ写真

以上

資料・付録

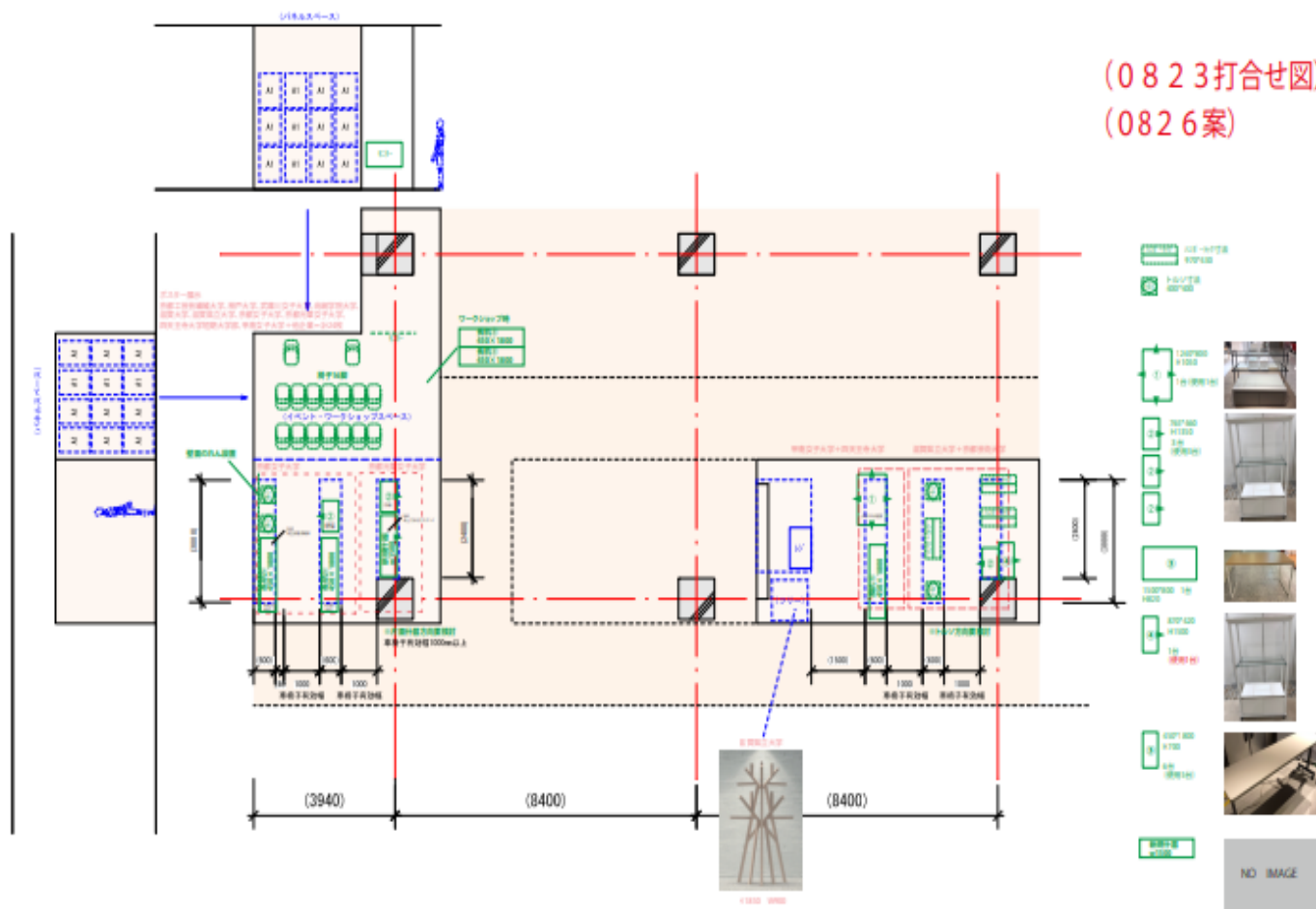
主催、共催、協賛、後援等一覧

	団体等名称
主催	エン・ウィ・クル（実行委員会）
	（株）Style Agent
共催	（一社）日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会
	（一社）日本繊維機械学会・フェロー会
	NPO法人未利用資源事業化研究会
協賛	なんばマルイ
後援	ダイセン（「繊維ニュース」）
	近畿経済産業局
	一般社団法人日本繊維製品消費科学会
	協同組合 関西ファッション連合（KanFA）
	『京都市ごみ減量推進会議（（公財）京都市環境保全活動推進協会）』
	一般社団法人Textile Upcycle Platform
	一般社団法人Textile Circular Network
	「日報ビジネス株式会社（循環経済新聞）」
実行委員	森下あおい（滋賀県立大学）：実行委員長
	宮原佑貴子（京都光華女子大学）：副実行委員長
	井上真理（神戸大学）
	木村照夫（京都工芸繊維大学）：全体統括
	三宅 肇（甲南女子大学）
	高山祥子（京都女子大学）
	奥谷隆幸（㈱Style Agent）：会計担当
	佐々木一泰（滋賀県立大）：会場レイアウト指導
参加大学（ポスターを除く）	滋賀県立大学
	滋賀大学
	神戸大学
	京都女子大学
	京都光華女子大学
	京都芸術大学
	甲南女子大学
	四天王寺大学短期大学部
	京都工芸繊維大学

順不同

資料2

(0823打合せ図)
(0826案)



参加学生一覧（敬称略）

大学名	所属	学年	氏名
滋賀県立大学	服飾デザインゼミ	M2	野々村多慧子
		M1	坂上晴穂
		4	山下尚輝
		4	藤原柊果
		4	稲福麗美
		4	寺崎双実夏
		3	新木彩夏
		3	中川みのり
	空間デザインゼミ	3	尾崎梨帆
		3	川合沙歩
		3	酒井遥菜
		3	竹内あかり
京都女子大学	ゼミ	4	山田 梨香子
		4	早船 愛有加
		4	安藤 楓華
		4	岡本 舞
		4	水野 香花
		4	戒能 仁美
		3	竹本妃奈
		3	大平詞美
		3	小林華奈
		3	有本 すず
	生活デザイン研究所 （有志）	3	石田 妃菜子
		3	岡島 美羽
京都光華女子大学	ゼミ	3	小谷 天音
		3	阪口 晴菜
		3	江口 里咲
		3	太田 美和
		3	北村 咲乃
		3	清水 美蘭
		3	戸島 亜結希
		3	中溝 美優
		3	藤田 日那
		3	細見 陽和
		3	山岡 なな
		3	山本 明日花
		3	堀越 麗華
	有志	3	岡田 茉優
		3	澤井 桃子
		3	勝木 友莉乃
京都芸術大学	授業から派生した有志	3	風戸 董
		3	広瀬彩美結
		3	吉川莉央
		3	今谷友南
		3	浅野美優
		3	白木綾
		3	堀江若菜
		3	寺本昂平
甲南女子大学	生活環境学科ゼミ	3	大谷理子
		3	水垣美咲
		4	久野 莞奈
		4	鈴木 花菜
		4	奥野有紀子
四天王寺大学 短期大学部	ライフデザイン学科 （有志）	4	村上澄華
		4	勝男 美咲
		2	浦野 来美
		2	伊庭 真凜
		2	大村 柚穂
		2	樋口 佑貴乃
		1	富岡 幸夏
		1	中山 零奈
		1	藤戸 さくら
		1	細見 優心

資料4

参加大学と繊維資材協力企業一覧

	団体等名称
参加大学（ポスターを除く）	滋賀県立大学
	滋賀大学
	神戸大学
	京都女子大学
	京都光華女子大学
	京都芸術大学
	甲南女子大学
	四天王寺大学短期大学部
	京都工芸繊維大学
繊維資材協力	1.東亜紡織(株)
	2.兵庫県立工業技術センター
	3.（株）フジックス
	4.岡本(株)
	5.(有)井上企画・幡
	6.帝人フロンティア(株)
	7.帝人(株)
	8.(有)村田堂
	9.(株)カラーループ
	10.東谷商店
	11.ナカノ(株)
	12.瀧本(株)
	13.時田毛織(株)
	14.(株)ワコール
	15.(株)ニトリホールディングス
	16.東リ(株)
	17.(株)カズマ
	18.木下製網(株)
	その他、2企業

順不同



「エンウィクル」の名前には、エン（縁、円、丸い）、ウィ（私たち）、クル（一緒に、鍵）の意義があり、今回のイベントにおいて「私たちとともに、これからの社会に向けて、より良い幸せのカギを開けましょう」というスローガンが込められている。

以下のページ

資料 6 プロダクツ一覧

資料 7 ワークショップ一覧

資料 8 トークショー一覧

資料 9 ポスター一覧

資料 10 学生アンケート結果

ご提供：株式会社フジックス	
素材：ミシン糸	

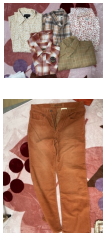
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 11	ピアス		300	滋賀県立大学	—
SK12	イヤリング		300	滋賀県立大学	—
SK13	ネックレス		500	滋賀県立大学	—
SK14	リング		500	滋賀県立大学	—
KK-01	スパイダーフレーム（小）		1,000	京都光華女子大学	カーペット糸（東リ）
KK-02	スパイダーフレーム（大）		1,200	京都光華女子大学	カーペット糸（東リ）
KK-03	しおり		700	京都光華女子大学	カーペット糸（東リ）
KK-04	ヘアゴム		500	京都光華女子大学	—
KK-05	イヤリング		500	京都光華女子大学	—

ご提供：東谷商店	
素材：古着	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK16	スカート		3000	滋賀県立大学	スウェード素材
KN-07	ポシェット		1000	甲南女子大学	カーベット糸
KN-16	バック		1000	甲南女子大学	—
KN-17	シュシュ		300	甲南女子大学	—
KN-18	シュシュ		300	甲南女子大学	—
KN-19	香り袋・ラベンダー		450	甲南女子大学	—
KN-20	小物入れ		600	甲南女子大学	—
KN-21	ポシェット		1000	甲南女子大学	—
ST-2	巨大シュシュ（緑）		350	四天王寺大学短期大学部	—
ST-3	ポシェット		1800	四天王寺大学短期大学部	スウェード素材
ST-4	つけ襟（各種）		2000	四天王寺大学短期大学部	スウェード素材
ST-8	巨大シュシュ（花柄）		350	四天王寺大学短期大学部	—
ST-11	魚型猫用けりぐるみ		400	四天王寺大学短期大学部	—
ST-12	丸型巾着		400	四天王寺大学短期大学部	靴下輪っか
ST-13	ヘアゴム（花柄）		350	四天王寺大学短期大学部	—

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	古着種類
KJ-101	トートバッグ		10,000	京都女子大学	
KJ-102	スマホポシェット		2,000	京都女子大学	
KJ-103	クマ（キーホルダー）		1,600	京都女子大学	
KJ-104	クマ（ブローチ）		1,500	京都女子大学	
KJ-105	ウサギ（ブローチ）		1,500	京都女子大学	
KJ-106	ハート（ブローチ）		1,000	京都女子大学	
KJ-107	しきもの（小）		500	京都女子大学	
KJ-108	しきもの（中）		700	京都女子大学	
KJ-109	しきもの（大）		800	京都女子大学	
KJ-202	ポーチ 2		1000	京都女子大学	
KJ-204	小物入れ		500	京都女子大学	
KJ-201	ポーチ 1		1000	京都女子大学	
KJ-203	ボックスポーチ		1000	京都女子大学	
KJ-205	壁掛け小物入れ		700	京都女子大学	
KJ-206	ボックスポーチP20		2200	京都女子大学	
KJ-207	ボックスポーチP16		1500	京都女子大学	
KJ-208	ファスナーポーチP12		1100	京都女子大学	
KJ-209	羽がま口ポーチ		1100	京都女子大学	

no.	商品名	商品写真	販売価格 (円)	制作大学	古着種類
KJ-210	裂き編みバッグ		2500	京都女子大学	
KJ-301	キーホルダー		800	京都女子大学	
KJ-302	巾着		1000	京都女子大学	
KJ-401	iPhone13 Pro スマホケース		800	京都女子大学	
KJ-402	球体パレット		1100	京都女子大学	
KJ-403	リング		800	京都女子大学	
KJ-404	チェーンイヤリング・ピアス		1,200	京都女子大学	
KJ-405	薔薇イヤリング・ピアス		1,200	京都女子大学	
KJ-406	イヤリング		1000	京都女子大学	
KJ-407	パレット		1,200	京都女子大学	
KJ-408	鞆		3,000	京都女子大学	
KJ-409	筆箱		1,500	京都女子大学	
KJ-410	青リング		800	京都女子大学	
KJ-501	くまさん		3,000	京都女子大学	
KJ-502	イヤリング花 大		1,200	京都女子大学	
KJ-503	イヤリング花 小		800	京都女子大学	
KJ-504	ヘアアクセサリ		1,200	京都女子大学	
KJ-505	指輪 大		1,000	京都女子大学	
KJ-506	指輪 小		800	京都女子大学	

no.	商品名	商品写真	販売価格 (円)	制作大学	古着種類
KJ-507	イヤリング キラキラ		1,500	京都女子大学	
KJ-507	イヤリング		800	京都女子大学	
KJ-507	ヘアゴム		600	京都女子大学	
KJ-701	裂き編みバッグ		1000	京都女子大学	
KJ-702	裂き編みバッグ		1000	京都女子大学	
KJ-703	裂き編みバッグ小		300	京都女子大学	
KJ-704	裂き編みバッグ大		2000	京都女子大学	
WS	ワークショップ		500	京都女子大学	

ご提供：岡本株式会社	
素材：輪っか	

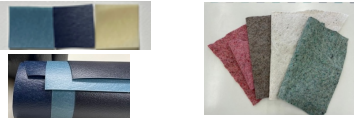
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KJ-601	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-602	ペットボトルカバー小		600	京都女子大学	—
KJ-603	ペットボトルカバー大		700	京都女子大学	—
KJ-604	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-605	なべしき		1200	京都女子大学	—
KJ-606	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-607	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-608	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-609	コースター		500	京都女子大学	—
KJ-610	プラントハンガー		1000	京都女子大学	—
KJ-611	バナナクリップ		800	京都女子大学	—
KJ-704	裂き編みバッグ大		2000	京都女子大学	古着（東谷商店） 
KJ-210	裂き編みバッグ		2500	京都女子大学	

ご提供：兵庫県工業技術センター	
素材：フサ耳	

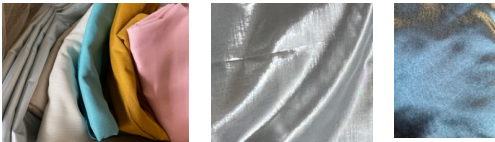
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KK-13	フサ耳バッグ		2000	京都光華女子大学	—
KG30	トートバック		2800	京都芸術大学	—

ご提供：株式会社カラーループ	
素材：圧縮フェルト、樹脂シート	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK18	ポーチ	 	600	滋賀県立大学	—
SK19	ミニバッグ	 	700	滋賀県立大学	平織生地 スウェード生地 
SK10	まきスカート		5500	滋賀県立大学	—
ST-9	小物入れ 三角・四角	 	500	四天王寺大学短期大学部	—
KK-11	フェルトバッグ（ピンク大）		2000	京都光華女子大学	スウェード生地
KK-12	フェルトバッグ（グリーン小）		2000	京都光華女子大学	スウェード生地
KK-12	トリゴンポーチ		1000	京都光華女子大学	—
KK-16	トリゴンポーチ ワークショップ		500	京都光華女子大学	—

ご提供：株式会社カズマ	
素材：カーテン生地	

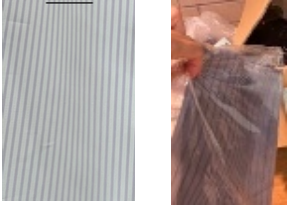
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KG10	ロングスカート_ベージュ		4500	京都芸術大学	—
KG12	ロングスカート_パッチワーク		5500	京都芸術大学	—
KG13	ミニスカート_黒		5500	京都芸術大学	—
KG14	ミニスカート_ピンク		5500	京都芸術大学	
KG15	ミニスカート_青		4500	京都芸術大学	
SK26	かばん		1500	滋賀県立大学	—
SK27	スカート		2500	滋賀県立大学	—
SK28	トップス		2500	滋賀県立大学	—

ご提供：(有)井上企画・幡	 
素材：蚊帳素材	

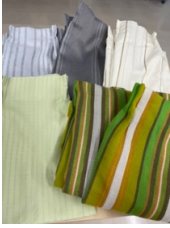
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KN-10	デザインピアス		300	甲南女子大学	—
ST-7	ロゼット（各種）		1000	四天王寺大学短期大学部	スウェード生地 
KG20	リング		3000～7500	京都芸術大学	—

ご提供：瀧本株式会社	
素材：織物素材	

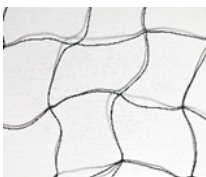
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK17	シャツ		3000	滋賀県立大学	古着（私物）
SK22	ノーカラーコート		5000	滋賀県立大学	表地（ナカノ（株））

ご提供：株式会社ニトリホールディングス	
素材：カーテン商材	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KG17	ミニスカート		4500	京都芸術大学	—

ご提供：帝人株式会社	 
素材：織物素材、漁網	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 1	スカート（赤）		4500	滋賀県立大学	着物地（私物）
SK 7	羽織		5500	滋賀県立大学	—
SK 8	アクセサリ		800	滋賀県立大学	—
SK 9	まきスカート		4000	滋賀県立大学	—

ご提供：帝人フロンティア	
素材：織物素材	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 2	ターバン		1000	滋賀県立大学	—

ご提供：時田毛織株式会社	 
素材：ウール織物	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 3	ベスト(格子)		2000	滋賀県立大学	—
SK15	スカート		3000	滋賀県立大学	織物素材 (ナカノ（株）)

ご提供：株式会社ワコール	
素材：レース	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KG01	割烹着_水色		7000	京都芸術大学	—

ご提供：東リ株式会社	
素材：糸	

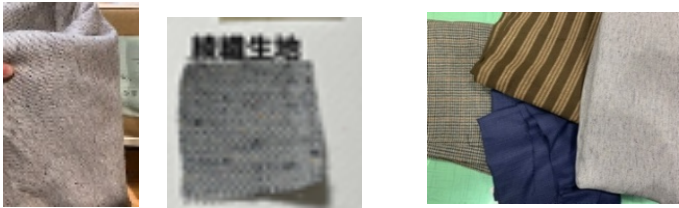
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK23	コサージュ		600	滋賀県立大学	—
KK-01	スパイダーフレーム（小）		500	京都光華女子大学	ミシン糸 （株）フジックス
KK-03	しおり		700	京都光華女子大学	ミシン糸 （株）フジックス
KK-10	プランツハンガー（チャコール）		1000	京都光華女子大学	フェルト （トーア紡）
ST-1	リース		2000	四天王寺大学短期大学部	—
ST-5	巾着（小）		350	四天王寺大学短期大学部	布地（私物）
ST-6	巾着（大）		450	四天王寺大学短期大学部	布地（私物）

ご提供：有限会社村田堂	
素材：制服	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 4	ブラウス		3000	滋賀県立大学	—
SK 5	ブラウス		3000	滋賀県立大学	—
SK24	スカート		4000	滋賀県立大学	織物素材（無地）
SK25	バッグ		3000	滋賀県立大学	織物素材（無地）

ご提供：ナカノ株式会社	
素材：織物素材	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK22	ノーカラーコート		5000	滋賀県立大学	裏地 (瀧本株式会社)
SK19	ミニバッグ		700	滋賀県立大学	シート、スウェード生地等 (株式会社カラー ループ等)
SK15	スカート		3000	滋賀県立大学	毛織物 (時田毛織 (株))

ご提供：東亜紡織株式会社	
素材：フェルト	

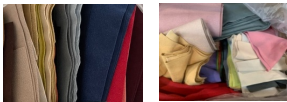
制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
KK-06	ねこトレイ （グレー・チャコール）		700	京都光華女子大学	
KK-08	ミニトレイ （グレー・チャコール）		500	京都光華女子大学	
KK-10	プランツハンガー （チャコール）		1000	京都光華女子大学	カーペット用糸 （東リ（株））

ご提供：木下製網株式会社	
素材：魚網	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK20	漁網リュック		1000	滋賀県立大学	—
SK21	漁網ポシェット		800	滋賀県立大学	—

ご提供：その他企業様	
素材：スウェード素材	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格 (円)	制作大学	合わせて使用した提供素材
KK-14	スウェードバッグ		1500	京都光華女子大学	ー
SK16	スカート		3000	滋賀県立大学	古着 (東谷商店)
KN-01	テトラボーチ (赤)		300	甲南女子大学	ー
KN-02	テトラボーチ (黒)		300	甲南女子大学	ー
KN-03	テトラボーチ (白)		300	甲南女子大学	ー
KN-04	テトラボーチ (白×赤)		300	甲南女子大学	ー
KN-05	テトラボーチ (黒×白)		300	甲南女子大学	ー
KN-06	小物入れ		1000	甲南女子大学	ー
KN-08	髪飾り		300	甲南女子大学	ー
KN-09	バックチャーム		300	甲南女子大学	ー
ST-3	ポシェット		1800	四天王寺大学短期大学部	ー
ST-4	つけ襟 (各種)	 	2000	四天王寺大学短期大学部	ー
ST-7	ロゼット (各種)		1000	四天王寺大学短期大学部	蚊帳素材 (井上企画・様)
ST-10	ヘアゴム (リボン)		350	四天王寺大学短期大学部	ー
SK19	ミニバッグ	 	700	滋賀県立大学	シート、スウェード素材など ((株)カラーレーブ等)

ご提供：その他企業様	
素材：織物素材	

制作品一覧

no.	商品名	商品写真	販売価格（円）	制作大学	合わせて使用した提供素材
SK 6	スカート		3000	滋賀県立大学	—
SK18	ポーチ		600	滋賀県立大学	圧縮フェルト (株式会社カラー ループ)
SK19	ミニバッグ		700	滋賀県立大学	デニムシート、 スウェード生地 (株式会社カラー ループ等)
SK24	スカート		4000	滋賀県立大学	制服（有限会社村田堂）
SK25	バッグ		3000	滋賀県立大学	制服（有限会社村田堂）

en-we-cle × Sustainable Department

私たちのSDGs ワークショップ

スケジュール

京都女子大学

小学生以上対象
(同伴1名可)
各回定員6名
参加費 500円

裂き編みでスマホポシェットを作ろう！

いらなくなった服、布などを裂いた(カットした)材料で作る編み物を「裂編(さきあみ)」と言います。
このワークショップでは、裂編でスマホポシェットを作ります！道具は使わず指で編んでいくので、誰でも簡単に作ることができますよ◎

9/2 金	①11:30-12:30	②14:00-15:00	③16:00-17:00
9/3 土	①11:30-12:30	②14:00-15:00	③16:00-17:00
9/4 日	①11:30-12:30	②14:00-15:00	③16:00-17:00



予約がおすすめですが
空きがある場合は
飛び込み参加OK！



お申し込みは
こちらのQRコードから
アクセスしてください

京都光華女子大学

事前申し込み不要
先着16名
参加費 500円
(材料費含む)

「Vegan Leather」を用いて、 三角形の壁掛け小物入れを作ろう！

株式会社カラー룹による廃棄繊維と樹脂をハイブリットした素材「Vegan Leather」を用いて、
三角形の壁掛け小物入れを制作します。

9/9(金)16:00～株式会社カラー룹 内丸もと子氏と京都光華女子大学 学生による
トークショーが開催されます！そちらも併せてぜひご参加ください。

9/9 金	17:00 ～ 18:00
-------	---------------



ewc
en-we-cle
エンウィクル

en-we-cle × Sustainable Department

私たちのSDGs トークショー

スケジュール

どなたも
ご自由に
ご参加ください
(参加費無料)

9/9 **金** テーマ「アップサイクルでSDGsに貢献」

	タイトル	講 師	司 会
13:00～	再生ポリエステルでアップサイクル	帝人フロンティア(株) 友滝勇気氏	京都女子大学
14:00～	染め直してアップサイクル	(株)京都紋付 荒川徹氏	甲南女子大学
15:00～	テント・フレコン廃材でアップサイクル	太陽工業(株) 豊田宏氏	滋賀県立大学
16:00～	色を利用してアップサイクル	(株)カラーループ 内丸もと子氏	京都光華女子大学

9/10 **土** テーマ「服を通じてSDGsに貢献」

	タイトル	講 師	司 会
13:00～	学校制服とSDGs	(有)村田堂 長屋博久氏	四天王寺大学 短期大学部
14:00～	服育とSDGs	(株)チクマ 有吉直美氏	滋賀県立大学
15:00～	衣とSDGs	神戸大学大学院 井上真理氏	京都女子大学
16:00～	ファッションとSDGs	(有)井上企画・幡 林田千華氏	京都芸術大学

「私たちのSDGs」ポスター展示一覧

	ポスタータイトル	発表者
1	古着のアップサイクルによる光る！ロゼット制作の試み	四天王寺大学 四天王寺大学短期大学部 ライフデザイン学科 谷明日香
2	USED デニム x リメイクファッション	服飾デザイン研究室 (滋賀県立大人間文化学部生活デザイン学科 森下研究室)
3	もう一度美しくよみがえる アップサイクル「和」ドレス	京都光華女子大学 キャリア形成学部 キャリア形成学科 ミヤハラゼミ3年生
4	京都女子大学 青木研究室	京都女子大学 青木研究室
5	畳縁廃材を活用した照明と手芸品の提案	尚絅学院大学 玉田ゼミ4年 田中柚羽・飛澤蒼
6	余った糸・生地・テープを用いたオリジナルテキスタイルの提案	甲南女子大学 小野寺美和
7	子育てひろば・リユース活動	滋賀大学教育学部 学校教員養成課程・家庭専攻 與倉弘子、平松紀代子
8	まずはリデュースする生活をしてみましょう	武庫川女子大学 生活環境学部生活環境学科 竹本ゼミ
9	持続可能な衣生活と環境を考える	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 井上真理
10	水フリーで染色	京都工芸繊維大学 奥林里子
11	森の中や大樹の下はどうして涼しくて気持ちがいいの？ フラクタル木かげにより街中にクールスポットの創生を！	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会、フェロー会 中村信
12	持続可能社会構築への挑戦	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
13	commpost™	株式会社アーバンリサーチ
14	地球の為に今できる事を考える 蚊帳再生プロジェクト	BAN INOUE
15	LOVE ME, LOVE EARTH.	株式会社ワコール
16	バッグのボタンを渡そう・つなごう Baton Bag Project	株式会社チクマ
17	テント・フレコン廃材でアップサイクル	太陽工業株式会社
18	服の終着地点	東谷商店
19	廃棄繊維を色で分けてアップサイクル	株式会社 colourloop
20	海のいのちを守るテクノロジー	帝人フロンティア株式会社
21	残糸の管理・検索システムの開発	兵庫県立工業技術センター
22	あなたの両手でCO2を抑えます	ナカノ株式会社
23	京都黒染	株式会社京都紋付
24	人・自然・産業の中に潜在する”未利用資源”を活用し、日本を元気に	特定非営利活動法人 未利用資源事業化研究会

「私たちのSDGs」についてのアンケート

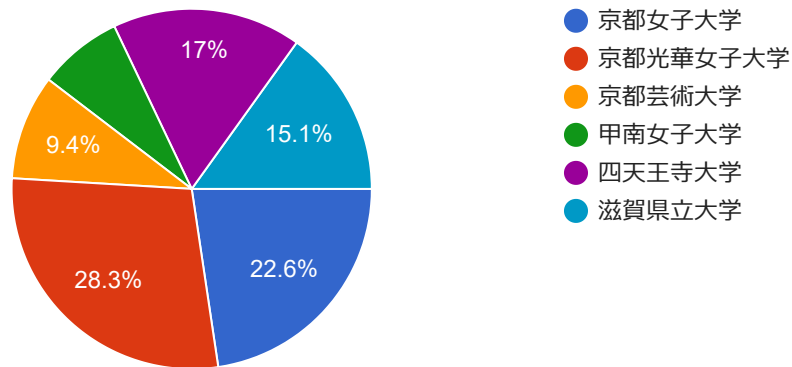
53 件の回答

[分析を公開](#)

1.大学名

 コピー

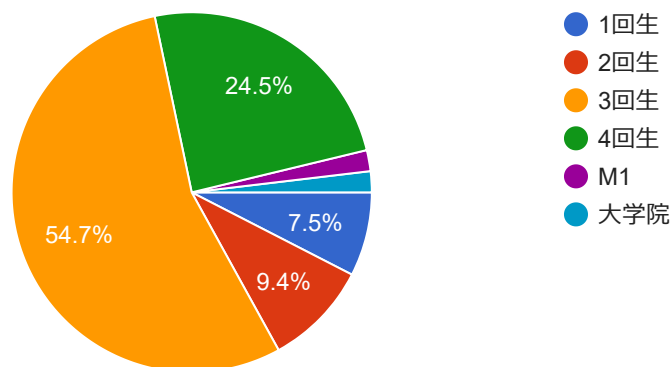
53 件の回答



2.学年

 コピー

53 件の回答

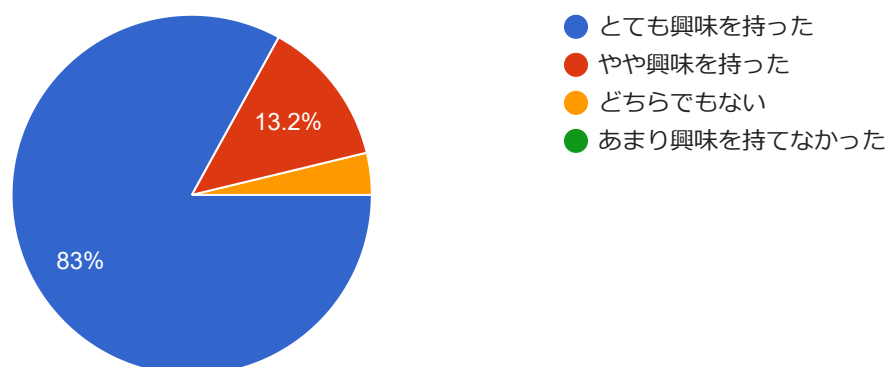


無題のセクション

3.今回のイベントには興味を持って取り組みましたか

 コピー

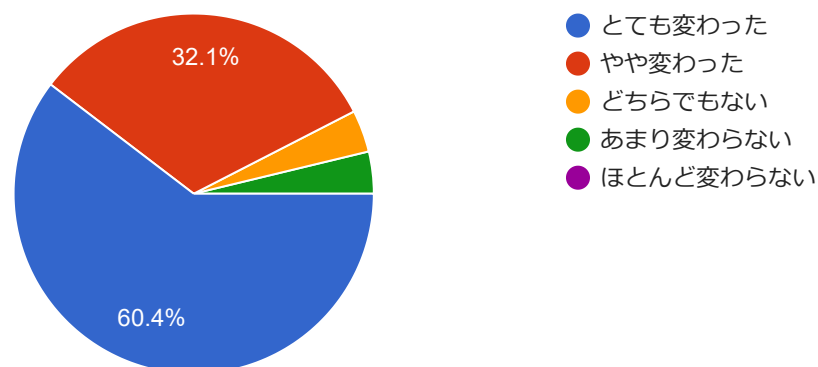
53 件の回答



4. 今回のイベントに参加してSDGsについての意識は変わりましたか



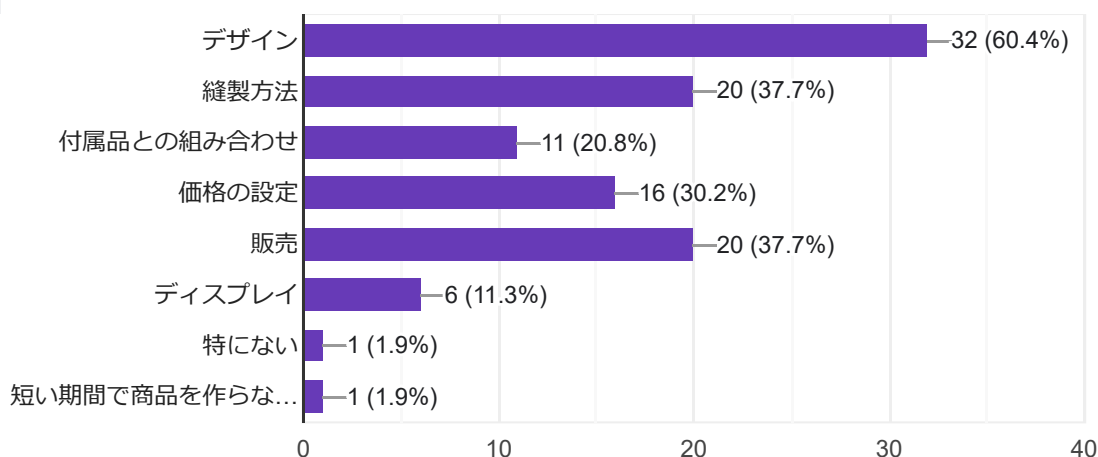
53 件の回答



5. 今回、最も大変だったことは何ですか（複数選択可）



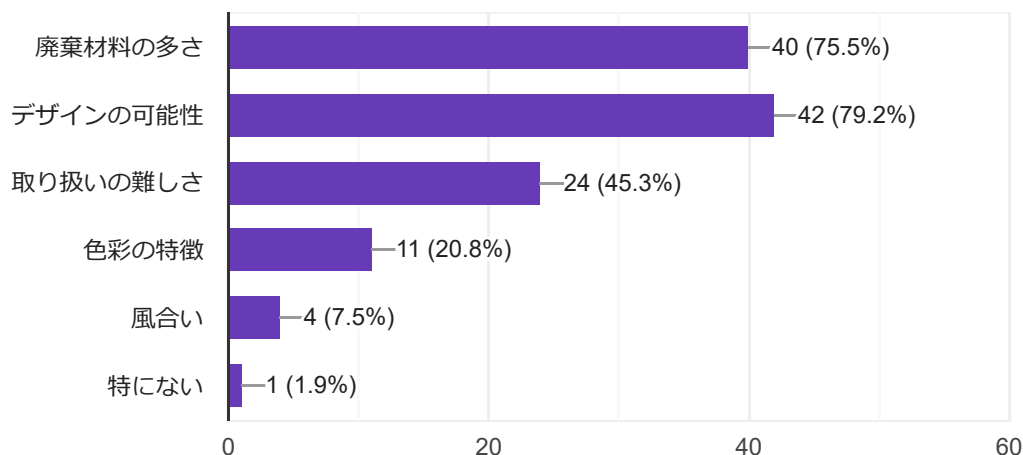
53 件の回答



6. 廃棄予定の繊維を用いて制作して気づいたことは何ですか（複数選択可）



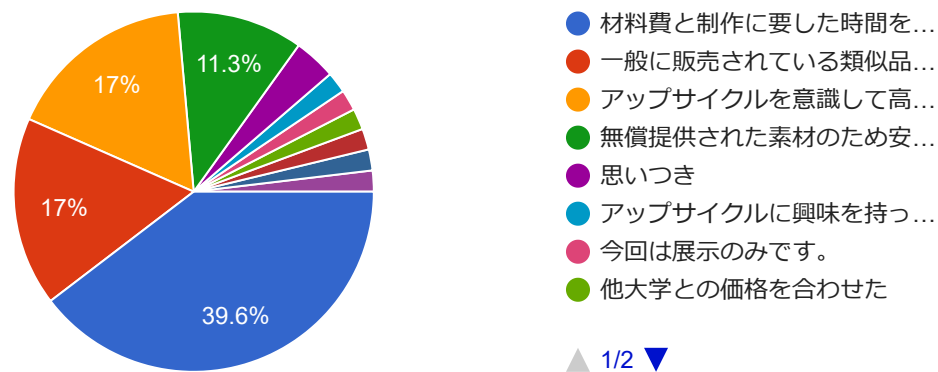
53 件の回答



7.販売価格はどのようにして決めましたか

コピー

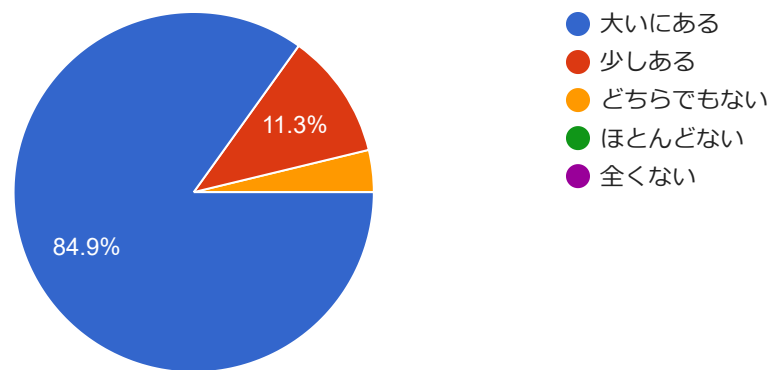
53 件の回答



8.他大学の学生と一緒に取り組んで良かったことはありますか

コピー

53 件の回答

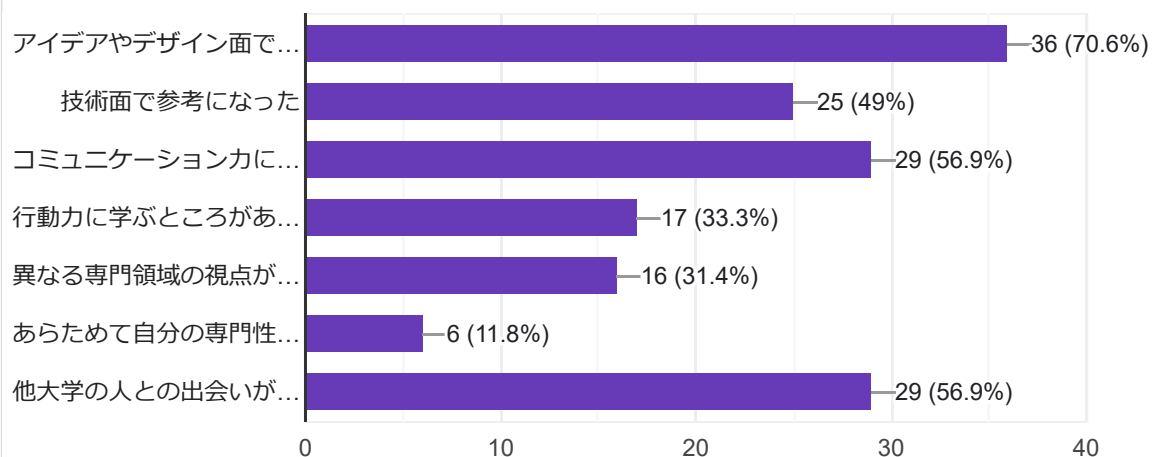


無題のセクション

9.「他大学の学生と一緒に取り組んで良かった」と答えた人は、どのようなことが良かったですか（複数選択可）

コピー

51 件の回答



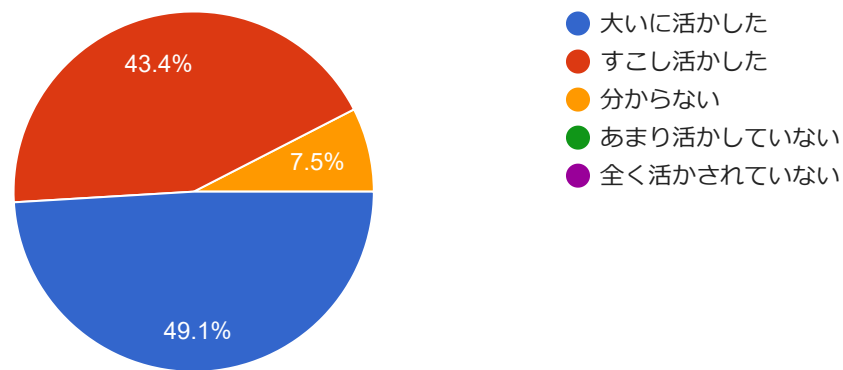
無題のセクション



10.自分の大学での学びや知見は活かせたと感じますか

 コピー

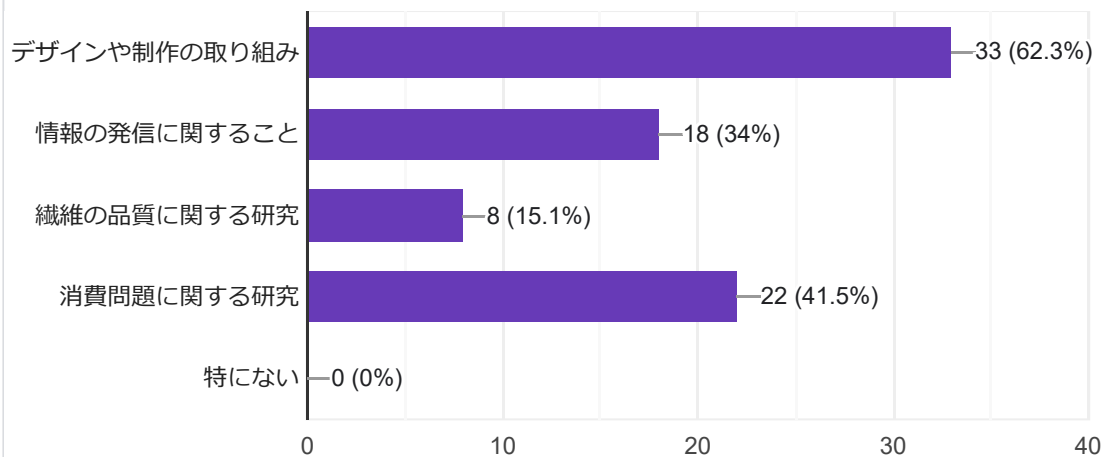
53 件の回答



11.自分の専門領域が可能なSDGsに関する社会貢献はどのようなことだと思いますか（複数選択可）

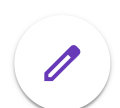
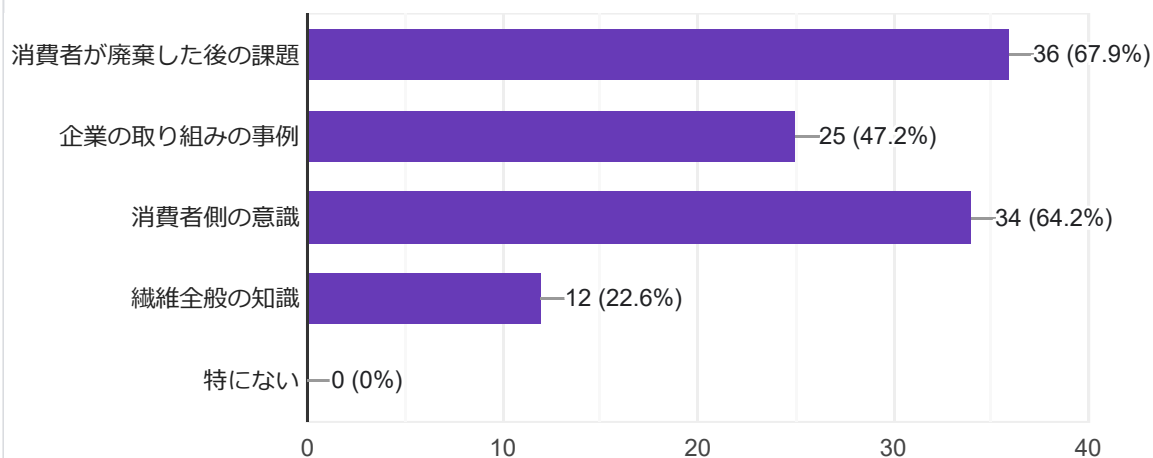
53 件の回答



12.廃棄に関わる繊維に関して知りたいことはありますか（複数選択可）

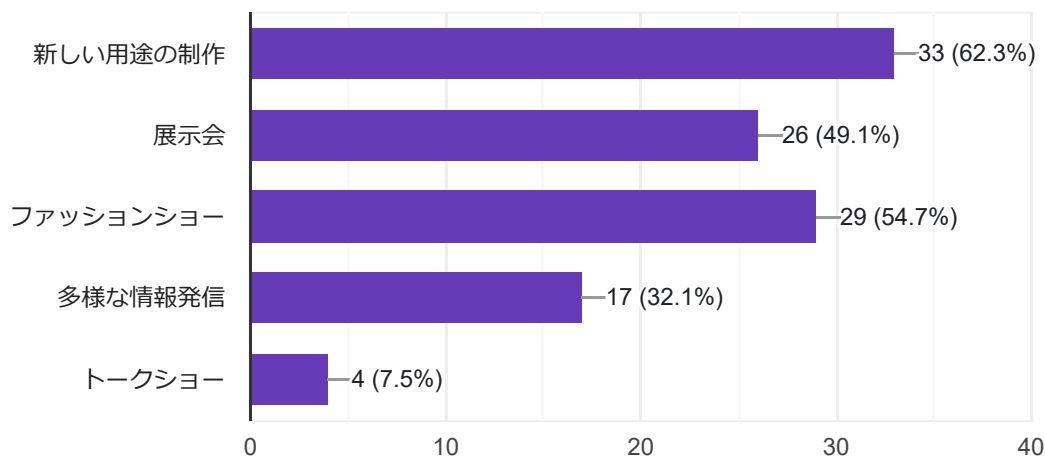
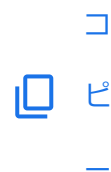
 コピー

53 件の回答



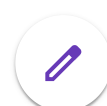
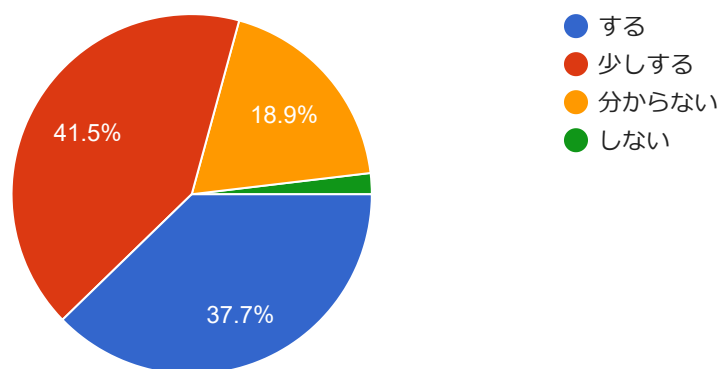
13.廃棄予定の繊維を使ったイベントをまた行うならどんな内容がしたいですか（複数選択可）

53 件の回答



14.将来の仕事を選ぶときにSDGsを意識しますか

53 件の回答



15.今回参加して最もインパクトがあったこと（印象的なこと、思い出になること等）を記述してください

53 件の回答

自分が製作したものの説明などを興味を持ってくださり、直に自分の作品が人の手に渡るところを見れてよかった

大学によって作品に特色があって面白かった。

自分の作った作品が、出会ったことのない人に知ってもらえて、意見をもらえたり買ってもらえたりしたことが本当に嬉しかったです。

他の大学の方との交流や、素晴らしい作品を見れたこと。

他校の商品の美しさ

他大学の方々と交流できたことです。私は、サークルなどには入っていないため、このイベントを通して同学年問わずコミュニケーションをとることができて良かったと思いました。

他大学の方とコミュニケーションを取ることで、作品だけでは汲み取れない制作意図だったり、制作過程の様子を知ることが出来、コミュニティの幅が広がりました。自分には思いつかない廃材の使い方が勉強になりました。

これのどこにアップサイクルの物が使用されているのだろう...と思わせられるような、素敵な作品ばかりでした。

商品の値段が高いとおっしゃっていたお客様がいらっしゃったことです。私たちは普段からSDGsに関心を持ち、出来上がった作品に対して価値を感じていますが、ふらっと立ち寄られるお客さまにとってはそうでもないことだということを知り、少しショックでした。しかしそういう人にも価値を感じてもらふこと、あるいは私たちが努力していかなければならないことを改めて認識しました。

それで同時に、京女が行ったワークショップを友人に宣伝しましたが、思いの外関心を持ってくれる方が多く嬉しかったです。少しでも興味を持っている人にもっと伝えていくということも大切だなと感じました。

作品が、同じ材料を使っても人によって全然違う物になっていたのがとても面白かった。

SDGsに既に興味のある方しかイベントに来ていただけないことが印象的です。一般の方が来られたとしても、その方は既にSDGsに関心のある方で、ふらっと立ち寄ったという方がすごく少ないと感じました。せっかく丸井さんという大きな会場を借りることができたのでもっとSDGsに興味のない一般の方にも見ていただきたかった。

漁網のアクセサリや金属の指輪など、衣料に限らず廃棄されたものを使用して小物を制作出来ることを知りました。また、それを知ったことにより自分の制作の幅を広げることが出来ました。



スタッフとしてお客様と接している時に、沢山お客様から学ぶことができました。
また、様々な考えを持つ学生や、先生達と沢山コミュニケーションをとる事によって、自分自身の考えの引き出しが増えたように感じます！
本当に良い経験でした。

まず、廃棄の問題に取り組むイベントに参加できたことを嬉しく思います。またSDGs、廃棄の問題に関心のある学生の方々と協力して取り組むことができて良かったです。今回のイベントで、見に来てくださったお客様に少しでも廃棄問題について関心を持ってもらえたなら、頑張って作品を製作して良かったなと思います。

同じ大学、他大学の方の作品を拝見し、発想や表現力を学んだ。

他大学の製作物の完成度やデザイン。

私が最も印象的だったのは、他大学との交流です。他大学との今回は初めてで、SDGsというひとつのくりであっても、様々な商品を見ることができました。
特に、芸術大学だからこそそのデザインを見て、服飾学科にはなかなか考えつかないようなものだと感じました。他大学とコラボ商品を作ることができたらまた新しいアップサイクルが生まれそうだと思います。

廃棄予定の衣服を提供していただいたときに、どうしたら古着感を払拭できるかを考えました。その結果、スラッシュキルトの技法を用いることで、芯地部分を除く全てのパーツが再利用でき、古着感も無くせることに気が付きました。
スラッシュキルトはパーツの大小に関わらず、そして穴やシミのある服でも問題なく使用できるため、あらゆる生地に対応可能だと気付くことができました。

個人ではどのように扱っていいのかわからなかったものが、他大学の方が素敵な作品にしていたこと。

廃棄素材の種類の多さです。廃棄素材といえば古着や繊維のイメージだったので漁網の商品があって驚きました。

繊維材料の廃棄の多さに驚きました。また、たくさんの方が参加したことで様々な商品が出来上がっていて、何にでもなるということが分かったし、印象的でした。

自分の大学の他のメンバーもそうですが、他大学の方の作品も見て、廃棄繊維材の種類の多さや量の多さを実感するとともに、こんなふうに活かせるんだとデザインの勉強にもなりました。たくさんの方と交流させていただき、そのような課題について活動されている方のお話も聞くことができました。自分に何が出来るのかを考えるきっかけとなりました。

初日のはじめてのお客様が、たまたまマルイを訪れた一般の方で、洋服を購入してくださったことです。自分の作った作品を販売することの楽しさや難しさを知るとともに、様々なお客様との出会いがあり、貴重な経験になりました。

思っていたよりも、お客さまが来てくださって驚きました。特に、自分の作ったものを買って下さった時は、めちゃくちゃ嬉しかったです。

ワークショップに小学生のお子様に参加してくださったこと。



思っていたより、お客様がSDGsに興味を持ってくださったことです。

高めに商品価格の設定をしても思いを通して伝わって購入していただけることが印象的でした。

他大学さんの作品に心を奪われました！特に京女さんのおにぎり！発想が素晴らしいと感じました。すごく刺激になりました。

いろいろな課題や場面での難しさとともにやりがいとたのしさをかんじることができた。

他大学の商品、作品をみてアイデアが凄く、印象に残った。

zoom会議で顔を合わせていた人同士が実際にお会いできたときに、新鮮な気持ちになりました。さまざまな大学の特色を活かした作品たちを見ることができて、自身の視野も広がり楽しかったです。

他大学の作品がとてもすごくて印象に残った。今流行りのスマホカバーショルダーはかわいくて、簡単に作ることができてよいと感じ、魚の網を使った商品は発想がすごいと思った。自分にはない発想で商品が作られていて、このような商品も作れるのかと知ることができた。そのため、まだまだ他の商品を作ることができると感じ、廃棄されるものにもさまざまな可能性があるかと改めてわかった。

自分が制作していたもの以外にも、いろいろなアイデアがたくさんあって面白いと感じました。

裂きあみのワークショップが思い出

他大学の商品のデザインが面白いものや実際販売されているようなものを作られていて凄かったです。

自分たちの作ったもの以外にも他の大学の方の作品を見て、こんなものも作れるのかを知った。

商品のデザイン性の高さをみて、自分の研究のモチベーションが上がった。

他の大学のものとかを見て捨てられるものでも手を加えることによって、人に愛してもらえるものに生まれ変わることができるんだなと思いました。

実際にお客さんに手を取ってもらい、感想をいただいたり実際に買っていただいたりしたこと。自分の作ったものが誰かの手に渡るということが新鮮だった。

どこの大学の人も作るものに手が込んでいて、そんな洋服が作れるんだと驚きました。いらない糸で簡単に手縫いでスマホショルダーを作れることなどすごいなと感激しました。

漁網を使用した衣服

さまざまなアイデアやデザインがあり、廃棄予定の繊維に関するデザインの可能性を感じた。



山のように積み上げられた古着を知りショックを受けたが、今回のイベントで廃棄繊維を減らすことに精力的な企業の方々の話を見聞できたことで、削減に繋がる多くの可能性を感じた。同じ素材でも使い方で異なる印象を与えることに面白さを感じ、他大学の学生のアイデアが刺激になった。

私たちのチームでも漁網を使って商品を作ろうとしましたが難しくてできませんでした。しかし、滋賀県立大学さんの漁網ワンピースやカバンを見てアイデアと技術にとっても感動しました。また、同じ素材を使っている各大学で全く異なった商品が作られていたことも印象的でした。それぞれの大学、個人のアイデアが詰まった素敵な商品を沢山見ることができてとても興味深かったです。

意外と来客の方の人数が多かったこと。

来店されたお客様に布を提供してくださった企業の方々だけでなく、スタイリストの方などがいらっしゃったこと。注目している人が多いことを実感したため。

企業様から提供していただいた素材が思っていたよりも遥に多く、まだ使えそうなものばかりだったことが印象的でした。

思っていたよりもお客さんが来て自分の商品やイベントにたくさん触れてくれたこと

お客様に話しかけに行くのに勇気がいりました

目に入るポップ作成をすることで、実際にお客様に興味を持ってもらうことができました。

お客様に可愛いと喜んでいただけたとき。

思っていたよりお客さまが来てくださった

初めてこんなたくさんの方と一緒に販売させていただけてそこで繋がりができたのが今回とても大切にしたいことだなと思いました。



16.あなたが思う今回のイベントの全般の改善点とそれに対するアイデアを記述してください

33 件の回答

ミーティングの議事録などあれば全員に内容がもれなく伝わったと思う。

最低価格やクオリティの足並みを揃える

満遍なく商品を手に取ってもらえたり、知ってもらえ売り上げなどに偏りがなくなるかなと思う。

Instagramの活用が不十分だったと思います。コロナ禍での開催だったので、トークショーをインスタライブで配信するなどあれば、誰でも参加しやすいイベントを開催できたのではないかと思います。また、作品のライブ作成も配信したり、値下げ情報や商品説明などもストーリー投稿すればより若い人への発信を見込めると思います。

販売をするときに、お客様に声をかけたら良かったです。

商品を並べるブースが2つに分かれていたため、全て一緒にした方が見に来てくれた方にも分かりやすいと思いました。

情報共有を確実に行う

トークショーに沢山の方が来られましたが、やはり一般のお客様が少ないと感じました。改善点としては、やはり声が届きにくく何を話しているのかがいまいちわからないこと、会場が立ち見がしにくかったこと、話の内容がマニアックなものもあり一般の方のSDGsの導入としては少し難しい部分も多かったことが挙げられると思います。

1つ目に関しては、皆さん感じておられると思いますがマイクの用意は必要だったと思います（マルイさんのご迷惑になってしまうかもしれませんが）。また参加者の方の声も届きづらかったので、司会の方がスマホの拡声器のアプリを事前にダウンロードしておいて、質問者の方のところへ行き、マイクのようにする、というのもありかなと思います。

2つ目は、会場のすぐ隣は通路なので、立ち見しにくいだろうなと思っていました。場所はどのようなものと思いますが、もし次回開催する場合には、広めの通路のそばのスペースなどがいいかと思います。

3つ目は、私個人の感想で言うと、理系チックな話は少し分かりにくく、逆に企業さんの取り組みやもっと初歩的な話だとしだから理解もでき、興味も持てました。一般消費者の方により身近で便利な情報をお届けするほうが関心を持って立ち止まってくださるかなと思いました。

以上3点を挙げさせていただきました。あまり良いアイデアというわけにはいきませんでした。が、何かのお役に立てれば幸いです。

もう少しレジの扱い方を全員が把握しておくべきだった。

始まってからの情報発信の少なさ

Instagramはもちろん、丸井の中でももっと「イベントをやってる」ことをアピールしたかつ



た。

ポスターをたくさんのところに配布または添付したり、Instagramを毎日更新したりなど、情報発信にもっと力を入れるべきだと感じた。

途中で宮原さんがして下さろうとしていたように、人通りが多い場所での宣伝ができると、それを見て来て下さる方が増えると思いました。

特にありません。最高でした

それぞれの大学での商品についての意見交換があっても面白かったのかなと思いました。

スペースに対してシフトの人が多いと感じたので、もう少し人数を減らしてもいいと思いました。

KUMOの商品が京女の展示ブースから販売ブースに動かしたあとよく売れたので、そういうディスプレイについては販売は販売で固めたほうがよかったのかなと思いました。今回は販売と展示で二箇所になってしまいましたが、一箇所でどちらも行うのがいちばんいいのかなとも思いました。

人通りが少ない中、ディスプレイを考慮できたことは良かったのですが、先生方に頼ってばかりで自主性が足りなかったなと感じました。売り場が離れていたり、他大学の作品に触るのに遠慮するところもあり、全員が集まれるような場所があればいいのになと思いました。

今回の会場は、周りに他の店舗が複数あり、人の出入りも多くなっていました。通路を塞がないようお客様の誘導方法を事前に考えておくなど、今後活かしていきたいと思います。また、今回販売した商品は、アクセサリー、ポーチ、かばんなど、女性向けのものが多く、お客様もほとんどが女性の方でした。より多くの消費者に関心を持ってもらえるよう、男性向け、子ども向けなど、様々な商品のデザインを考えていくことが必要だと思います。

担当日は朝～昼まで、昼～夜までの2部制のシフトにすべきだと思います。人数の加減やイベント内容によっては、難しいと思いますが、できれば丸1日担当は考えて頂きたいです。

より多くの人目の目に触れるように、もっとsnsを活用しても良かったのではと感じた。例えば、毎日インスタを更新する、ハッシュタグを多用する、Twitterを開設する、webサイトを作るなど。

アイデアをもっともっと膨らませて、多様な作品を作りたいです。

ブースが分かれていたこと。大学ごとに競争しても面白いと思った。エンウィクルでまた何かしたい！

イベント期間中のシフトが1日あたりの時間が長すぎると思ったので、各大学内で前後半を決めるのではなく大学ごとに前後半を決めた方が良くと思う。

トークショーの際のマイクについて、コロナの観点もありあまり大きな声を出さない方が良いので、話し手も聞き手も双方にしっかりとマイクが必要だったと思います。



- ・ 宣伝活動

SNS（インスタ）のフォロワー数を増やす

チラシなどを配る

- ・ 制作と販売の場所が離れていること

場所を同じにする、両方が一緒に見えるようにする

もっとお客さんとコミュニケーションを取ればよかったと思いました。

お客様からワークショップについて店内放送もしてもらうともっと色々な人に参加してもらえるのではないかとのご意見を今後活かせると良いと思いました。

他の大学の方が制作したものがどういうものか説明も直にかけたらよかったと感じた。なかなか難しいかもしれないがイベント前に対面で会う機会があればより良かったと思う

もっと他の大学の方たちと話せれば良かったと思いました。

商品が売れる場所と売れにくい場所があったので、もう少し売り場の工夫をすればよいと思った

忙しい日とほぼ何もすることがない日の差が多いかように感じた。そのため、大学ごとでシフトを組むのではなく、学生全体で例えば遅番早番と分けてもっと効率的なシフトを組むべきだと感じた。また、ブースが離れているのが残念だった。

沢山の人にエンウィクルの活動を知ってもらおうという趣旨を考えたときに、初日や早めの段階で関係者が沢山売約するのは少し控えた方がいいと思いました。また、学生も生徒も8時間店頭にいるというのはあまりに大変だったのでシフト体制をしっかり作った方がいいと思いました。

特になのですが制作の段階から他大学と交流できたら嬉しかったです。一緒に作業するなど

期間にももう少し余裕を持って臨みたかった。もっといろんな商品を作ってもよかったかなと思います。

他大学の商品の詳細（どんな糸でできたものかなど）があれば、もっと商品の魅力を伝えられたと思います。

お客様にももう少し商品の説明をできたらよかった

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



廃棄繊維で服・アクセ

関西の大学生・研究者ら開発 来月大阪でイベント



企業が素材提供 SDGs実現へアップサイクル

関西の全の学生と研究者が、国連のSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みを企業と協働しながら進める「アップサイクル・ウィーク」を結成した。活動の第一弾として、繊維廃材で作った服やアクセサリの販売をするイベント「私たちのSDGs」を9月27〜28日に、なんばマルイ大阪市中区で開く。



企業から提供された廃材を使い、商品作りに取り組む学生たち（京都市右京区・京都光華女子大）



甲南女子大の学生が廃棄予定の生地で作ったアクセサリ

木村さんは「大学が共に手を携え、企業の協力を受けて廃棄予定の繊維材料のアップサイクルに取り組むのは新たな試み。未来を担う学生たちが考えた商品を通して、環境について考える場になれば」と話している。

販売するのは、漁網やフェルトなどの廃材で作ったスカート（滋賀県立大）、ミシン糸を素材にしたネックレスやヘアゴム（京都光華女子大）、古着やはぎれを材料にした付録（四天王寺大短期大）など。ワークショップとして「繊維廃材スマホポシエーション」（27〜28日、要予約、500円）と「廃棄繊維を原料としたハイカーンソーで小物入れ作り」（9日、500円）を開くほか、企業担当者と研究者が、廃棄物に新たな価値を加え再生した新製品としてアップグレードするアップサイクル（など）について語るトークショー（9、10日、無料）もある。

イベントに参加するのは京都多大や滋賀県立大、甲南女子大など9大学の学生60人。ワコルや帝人、フジクラ、ニトリホールディングスなど20社から、不織布の端や残糸を廃棄予定だった繊維材料の提供を受け、商開発を進めた。

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

刊 循 環 経 済 新 聞 2022年（令和4年）8月29日（月曜日）

SDGs関連トークショーのスケジュール

日	タイトル	時間	講師	所属
9月9日（金）	アップサイクルでSDGsに貢献	午後1時〜	友浦勇気氏	帝人フロンティア
	染め直してアップサイクル	午後2時〜	荒川徹氏	京都紋付
	デント・フレコン廃材でアップサイクル	午後3時〜	重田宏氏	太陽工業
	色を利用してアップサイクル	午後4時〜	内丸もと子氏	カラーグループ
9月10日（土）	学校制服とSDGs	午後1時〜	長屋博久氏	村田堂
	服を通じてSDGsに貢献	午後2時〜	有吉直美氏	チクマ
	衣とSDGs	午後3時〜	井上真理氏	神戸大学大学院
	ファッションとSDGs	午後4時〜	林田千華氏	井上企画・橋



「裂編（さきあみ）ワークショッ」は9月27〜28日に各3回実施。申し込みは専用フォーム（<https://forms.gle/5HJ5WH0jWxBZTQA>）から受け付けている。「SDGs 関連トークショー」は9月9〜10日に予定しており、申し込みは不要となっている。

参加大学は、京都工芸繊維大学、京都女子大学、京都光華女子大学、京都芸術大学、滋賀県立大学、滋賀大学、神戶大学、甲南女子大学、四天王寺大学短期大学部、繊維資材協力は、東亜紡織、兵庫県立工業センター、フジックス、岡本、井上企画・幡、帝人フロンティア、帝人、村田堂、カラーグループ、東谷商店、ナカノ、瀧本、時田毛織、ワコル、ニトリホールディングス、東リ、カスマ、木下製網などが行う。

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

なんばマルイでSDGsイベント

繊維リサイクル技術研究会／エン・ウィークル

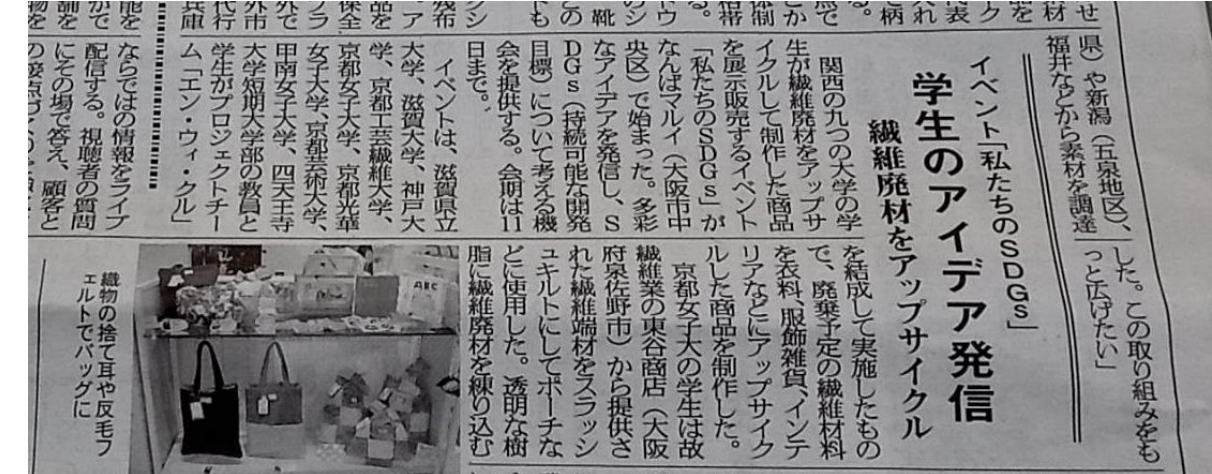
学生60人とチーム結成

（公財）ポイスカウ日本連盟は11月7日まで、循環型社会を目指す環境アクション「プラごみバスター大作戦」を実施する。協賛は（財）セブンイレブン記念財団。世界共通の課題である「プラスチックごみ」

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。



「私たちのSDGs」は、繊維製品の循環をめざして「アップサイクル」を総合テーマにしたイベントを開催する。同イベントでは、メーカーや故繊維業者などから提供された廃棄予定の繊維材料を使い、学生が製作した衣服や服飾雑貨、インテリア作品等のアップサイクル商品を販売する。

関西の 学生発

SDGsイベント相次ぐ

「私たちのSDGs」は繊維機械学会リサイクル技術研究会に関わる学生、関係者がエシカル・ウィークというグループを結成し、実行委員会となり開催した。素材や繊維資材メーカー、アパレル、インテリア関連企業などの協力を得て、廃棄予定の繊維資材や古着などを使って、学生が服飾雑貨やインテリア作品などにアップサイクルした商品を作成。なんばマルイ1階の特設会場で販売した。漁網をアップサイクルしたアクセサ

9大学が連携



「私たちのSDGs」では学生によるアップサイクル作品を販売

関西の大学、ファッション専門学校が連携したSDGs（持続可能な発展目標）関連イベントが、大阪で相次いだ。60人の学生による「私たちのSDGs」繊維製品の循環を目指しては9月2〜11日、なんばマルイで繊維廃材から制作した作品販売やトークショーを開催した。9、10日にマインドームおおさかで開かれた「おおさか手作りフェア2022」では、「第11回デコリメイクチャレンジ」で学生によるリメイク作品を披露、コンテストも行われた。（藤浦修一）



「デコリメイクチャレンジ」大阪府知事賞の梶田乃杏さん（右）とその作品

「私たちのSDGs」は繊維機械学会リサイクル技術研究会に関わる学生、関係者がエシカル・ウィークというグループを結成し、実行委員会となり開催した。素材や繊維資材メーカー、アパレル、インテリア関連企業などの協力を得て、廃棄予定の繊維資材や古着などを使って、学生が服飾雑貨やインテリア作品などにアップサイクルした商品を作成。なんばマルイ1階の特設会場で販売した。漁網をアップサイクルしたアクセサ

「私たちのSDGs」では学生によるアップサイクル作品を販売

リーなどが人気を集めた。この他、「私たちのSDGs」ポスター展や縫製ワークショップを実施。また、9、10日には協力企業などから講師を招いたトークショーを計8回開催。各人フロンティアの友蔵勇気氏は「再生ポリエステルでアップサイクル」で繊維、ファッション産業の環境負荷が高いことを紹介。「長く使える商品を生産して作り、リユースすることが最良で、リサイクルは最終手段」とした上で、大量生産、大量廃棄のビジネスモデルを変えないといけない」と強調した。

13校から180点

「デコリメイクチャレンジ」展は、「洋服・副資材の廃棄をなくす」「学生の学びを深める」狙いで開催。学生が、古着業者

廃材から作品、コンテストやトークショーも

や服飾副資材企業から提供を受けた古着やボタン、レース、ワッペンなど廃棄される副資材をアップサイクルさせた作品を制作。専門家に作品制作アドバイスも行い、ファッションアップした作品でコンテストを実施。10日、手づくりフェア会場で、入賞作品の発表、表彰が行われた。180点の応募作の中の最高位の大府府知事賞には神戸ファッション専門学校、上田安子振興専門学校は「一端材から生まれる衣装」、マロニエファッションデザイン専門学校は「リメイクコーデインイト」製作のカリキュラムをテーマに自校の取り組みを披露した。

9
2022

繊維 / 産資 / 染色 / 仕上

加工技術

Textile / Industrial Material / Dyeing / Finishing
TEXTILE PROCESSING TECHNOLOGY第2回
関西

サステナブル マテリアル展

レビュー

日大生 60 名の学生
が参加・主催

私たちのSDGs

なんばマルイで
9.2-9.11開催

JTCC

日本繊維技術センター

新市場創造講座

— 新市場を拓いた繊維生産・流通システム —

繊維産業論・繊維産業の足跡

ヨウ素が掘り起こすポリマーの可能性

食品のメイラード反応を利用した繊維の着色技術

炭素繊維コンポジットの最新技術動向

★ シルクへのいざない

スポーツウェアに求められる機能性・快適性

時 空 織 維

Fiber beyond space-time
に 壁紙瓦の赤色に魅せられて

● 「第787回 京都染色研究会例会」 ● 「北陸ヤーンフェア 2022」 ● 「北陸技術交流テクノフェア 2022」 ● 開催概要

高耐光堅牢度

Sumifix Supra LF シリーズ



住友化学株式会社

化成品事業部

〒104-8260 東京都中央区新川2丁目27番1号

TEL : 03-5543-5643



住化ケムテックス株式会社

染料・化成品事業部

〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目2番22号 北浜中央ビル3階

TEL : 06-4706-9351

<https://www.chemtex.co.jp/>

大学・企業・団体による関西初のイベント

9大学60名の学生
が参加・主導

私たちのSDGs

～繊維製品の循環をめざして～

なんばマルイで
9.2-9.11開催

繊維廃材をアップサイクルした商品を展示・販売

関西の9大学60名の学生が中心となり、繊維製品の廃棄から生まれる環境負荷について考え、SDGsの“つくる責任、つかう責任”を共有するため、繊維廃材をアップサイクルした商品を展示・販売するイベント「私たちのSDGs～繊維製品の循環をめざして～」が、9月2日～11日、なんばマルイ1F イベントスペース（大阪市中心部）で開催された。

主催は、エン・ウィ・クル（実行委員会）と株式会社Style Agent（Sustainable Department 企画）。イベントを企画したのは、（一社）日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会の木村照夫委員長（京都工芸繊維大学名誉教授）。委員会の有志と関西地区の大学の学生と研究者に呼びかけ、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みを企業と協業しながら進めるプロジェクトチーム「エン・ウィ・クル」を4月に結成した。一方、サステナブルに特化した店舗運営を目指していた有楽町マルイは、かねてより「学生といっしょにSDGsに関連した取り組みをしたい」と立案を計画していたところで、木村委員長が丸井グループに今回の関西初のイベントを提案したのがきっかけ。

「エン・ウィ・クル」の名前には、エン：縁がある、丸い、ウィ：私たち、クル：いっしょに、またフランス語でカギ——を表わし「私たちとともに、これからの社会に向けて、より良い幸せのカギを開けていきましょう」（森下あい 実行委員長（滋賀県立大学 人間文化学部



▲企業などから提供された廃棄衣料を指で編んでスマホポシェットを作る「裂編ワークショップ」、背景は大学・企業によるSDGs関連ポスター

生活デザイン学科 教授」といった願いを込めている。

参加大学は、京都工芸繊維大学、京都女子大学、京都光華女子大学、京都芸術大学、滋賀県立大学、滋賀大学、神戸大学、甲南女子大学、四天王寺大学短期大学部（順不同）の9大学。繊維資材協力は、東亜紡織㈱、兵庫県立工業技術センター、㈱フジックス、岡本㈱、㈱井上企画・幡、帝人フロンティア㈱、帝人㈱、㈱村田堂、㈱カラーループ、東谷商店、ナカノ㈱、瀧本㈱、時田毛織㈱、㈱ワコール、㈱ニトリホールディングス、東リ㈱、㈱カズマ、木下製網㈱、他（順不同）で、廃棄される予定だった布帛や耳端、不織布、糸などの提供を受け、学生たちが大学間の垣根を越えこれらをアップサイクルした商品を展示・販売した。また、来場者参加型の「裂編（さきあみ）」と「壁掛け小物入れ制作」のワークショップや、大学・企業によるSDGsに関連したポスター（24点）などを展示した。



▲学生ならではの柔軟な創作によるアップサイクル商品群。SDGsのカラーに合わせて展示

さらに9月9日・10日には、学生らの司会によりアップサイクルとSDGsについてディスカッションする「ゲスト講演者と学生・参加者によるSDGs関連トークショー」(下表)も催した。

廃材フェルトを用いた
パッチワークバッグ▶



	タイトル	講師・所属
9月9日 (金)	アップサイクルで SDGsに貢献	再生ポリエステルでアップサイクル
		友誼勇気・帝人フロンティア株
		染め直してアップサイクル
		荒川徹・桐京都校付
9月10日 (土)	服を通じて SDGsに貢献	テント・フレコン素材でアップサイクル
		豊田空・太陽工業株
		色を利用してアップサイクル
		内丸もと子・株カラーラップ
9月10日 (土)	服を通じて SDGsに貢献	学校制服とSDGs
		長屋博久・南村田堂
		服育とSDGs
		有吉直美・株チクマ
9月10日 (土)	服を通じて SDGsに貢献	衣とSDGs
		井上真理・神戸大学大学院
9月10日 (土)	服を通じて SDGsに貢献	ファッションとSDGs
		林田千華・南井上金固・株

京都女子大学 生活デザイン研究所 高山祥子 非常勤研究員は、「廃棄衣料を使ってパッチワークやスラッシュキルトなどの技法により、ぬいぐるみやポーチ、アクセサリなどを制作した。また、SDGsロゴの赤、オレンジ、黄、緑、青のカラーに合わせ、展示に工夫を加えた」と初めての試みに挑んだ意気込みを語る。

その他大学の展示商品では、刺繍の入った廃棄布を上手く利用した独創的な“のれん”、繊維廃材を色分別して作られた統一感のある色表現の反毛フェルトのバッグ、回収漁網を利用したベストやリュック、カーテン地の残布を利用した光沢感のある“かばん”など学生ならではの柔軟な発想から生まれた商品も数多い。

森下あおい 実行委員長は、「環境という側面から世の中の流れがSDGsに大きくシフトする中で、エン・ウィ・クルの次のステップとして



▲廃棄ジーンズからの
ボシェット



▲漁網のベストとフェルト
を重ねてデザインした服

今回の活動を全国にも広げるとともに、次代の学生にも継続していきたい。古くから身近なものであった繊維を、捨てないで自分たちでより良い新しいものにアップサイクルする経験と喜びを感じてほしい」と次のステップへ情熱を傾ける。

【付録3】スナップ写真

① 売り場の様子





② 裂き編みワークショップの様子





③「Vegan Leather」ワークショップの様子



④ トークショーの様子





⑤ ライブ制作の様子



⑥ 学生スタッフの様子





⑦ 閉会の様子

